

JAPAN URBAN DESIGN
INSTITUTE

都市環境デザイン会議

東京都文京区本郷 2-35-10
本郷瀬川ビルテ113

TELEPHONE 03-3812-6664
FACSIMILE 03-3812-6828

JUDI NEWS

040 JANUARY 20.
1998

発行者

都市環境デザイン会議 広報・出版委員会

| | |
|-------------------------------------|---|
| ●特集テーマ: アジアにおける都市(環境)デザインの動向・その1 | 4. 韓国における都市デザインの現況.....12 |
| 論説..... | 5. 「美化工程」の実施と都市形象の塑造...15 |
| 1. カトマンズ市における都市の発展： その社会的展望..... | 6. 整体・開放・多様—北海市の北部湾広場に 関する設計構想—.....17 |
| 2. 香港の都市開発ふたつのプリズムを通して の考察..... | 中国・北海市.....21 |
| 3. ハノイ：都市開発と都市設計における新た な挑戦..... | ●委員会活動報告.....22 |
| | ●ブロック例会レポート.....27 |
| | ●事務局より.....28 |
| | ●編集後記.....28 |

アジアにおける都市（環境）デザインの動向 ・その1

論説

櫻井 淳
SAKURAI JUN
広報・出版委員
株櫻井淳計画工房

今年のJUDIニュース編集の柱の一つに、アジアの都市（環境）デザインをおいていく。その主旨は、近年アジア諸国の経済的発展が急速な都市化を進行させ、アジアの諸都市が大きく変貌していること、さらに、単に経済だけでなく、様々な分野で日本と交流が深まる中で、都市デザインの分野でも多くの交流が出てきており、アジアの都市（環境）デザインの動向を顕在化しておきたいと思ったからである。

都市デザイン（という行為やその成果）は、「都市計画」が制度や地域社会と深く結びついているのに比べて、普遍性を持っていると言える。しかし、いったん環境や景観との関わりで扱うときには、政治システムや経済システムがその中に介在しながら、その場所に帰属する自然的条件や風土さらに宗教等と切離すことはできない。

近年、アジア諸国の驚異的経済発展に伴い、都市化の進行は目ざましいものがあり、多くの都市が近代都市として姿を現し始めた。勿論、近代化の過程を急ぎ足でやっているそのモデルは西欧や日本を含めた先進諸国であろう。このようにアジアの都市が近代化の嵐の中で、それぞれの都市が地域の属性を持ちながら都市デザインを醸成する姿、地域性・風土性あるいは歴史性との関わりを明確にせざるを得ないという点は、わが国と似たような土俵にあるといえる。それは、日本が、北海道や沖縄まで含むものの、基本的には東アジアモンスーン気候帯に属し、水田耕作を基礎になりたってき

た地域（社会）であるが、その地域の都市デザインの形成を物語ることに似ている。いまアジアの都市でどのようなことが企画されているかを見てみたい。また、最近のバブル崩壊後の動向も気になる所ではある。

今回の特集は、アジアの都市デザインの動向を見る第一ラウンドであって、アジア諸国、諸都市の事情に疎い編集委員会としては、しばらくは行きあたりばったりの構成をとらざるを得ないのをお断りしておく。正直にいって、どんな原稿が集まるかも予測が立たず、期待と不安の中にあった。しかし、何本か集まり翻訳される中で、政治システムの違いや宗教や風土の違いが明確な形に反映する姿や日本の70年代のアーバンデザイン創成期に似た新鮮さ等は、現在の日本都市デザインが再検討する課題や誰もが当たり前であると感じて語らなくなってしまった事柄等、多くの問題提起をしており、「アジア諸都市の都市デザイン動向」がある意味で多くの都市デザインの議論を喚起することを期待している。

今回掲載した中国・北海市については、土田氏にお願いした（土田氏の解説にある通り）、他の諸国、諸都市については、東京大学の西村研究室の留学生諸君に原稿をお願いしたものである。次号以降も、中国の続きの他、大阪大学鳴海研究室を中心に原稿を寄せてもらう予定だが、その他で都市紹介や事例紹介、会員諸氏の体験、感想、論争等があれば是非寄稿していただくことを願っている。

カトマンズ市における都市の発展：その社会文化的展望

ビジャヤ・K.・シュレスター
東京大学都市デザイン研究室

Kathmandu, the kingdom of Nepal is renowned for its richness in history, art and architecture of Newar community developed during the Malla dynasty (14-18 century). They are still a part of the living culture not just the remains of a bygone civilization.

Early settlement in Kathmandu has never taken place along the two holy rivers. Riverfront has been the ideal location for significant temple complexes needed for various cultural and religious works.

The periphery street in which chariot procession takes place, used to be the boundary between the *inner part* and *outer part* of the city. Based on societal hierarchy, houses with common walls are clustered around a courtyard which is again linked to another public space or to a street. Building blocks of three or four houses are oriented with slightly forward or backward to create an interesting space of varying shape and size inside the courtyard as well as along the street. Public spaces linked by non axial streets are organized in a *sequential order* (Fig. 1). They are used for multi purposes besides for social gathering and information exchange and thus like *community rooms*.

The singular composition of building enclosing them with minimum number of elements and consistence in building materials, architectural detailing and slight variation in building height give the feeling of *enclosure* with the sky like a roof. Streets and open spaces act as a *figure* with building blocks on the back as *ground*.

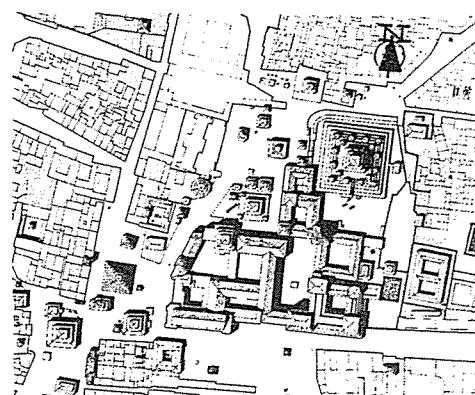


Fig. 1. Serial vision and courtyard planning - Durbar Square, Kathmandu

Religious buildings ranging from a small temple located at the corner of a square

ネパール王国のカトマンズは、マラ王朝(14-18世紀)の時代に発展したニューアー地域社会の豊かな歴史、芸術、建築で有名である。その歴史、芸術、建築というものは、過去の文明の遺物というだけではなく、今もなお現代文化の一部である。

カトマンズにおける初期の開拓地は、決してふたつの神聖なる河に沿った場所に設定されたのではなかった。河岸地域は、様々な文化的・宗教的な勤めを行なうのに必要とされる入り組んだ構造の重要な寺院を建設するために、理想的な場所であった。

馬車の行列が通る周辺の通りは、都市の「内側」と「外側」ととの間の境界線になるのが通常であった。社会的な階層の根拠となるのは、共有の壁をもつ家々が中庭に密集していることである。その中庭というのは、もうひとつの公共の空間あるいはひとつの通りに再び連結されている。3~4件の家々による建築区画は、興味深い空間を創造するために、わずかに前方あるいは後方に向きをそろえて建てられているが、そうした空間というのは通り沿いと同じように中庭内部に多様な形や大きさがある。軸のない通りによって連結されている公共の空間は、ひとつの「連続した秩序」で成り立っている。(図1) そういった公共の空間は、社会的集会や情報交換、そして、たとえば地域社会の空間としてなど、ほかにも多目的に利用されている。

奇妙な建築物のコンポジションは、エレメント、ディテール、建築物の高さにおいてわずかな変化の最小限の数の要素と調和で囲い込んでいるのだが、こうしたコンポジションは、屋根のように空を囲い込んでいるという印象を与える。通りとオープンスペースは「図」のごとく、建築区画の「地」の背景としてその役割を果たしている。

図1 連続的区画と中庭のプランニング (ダーバー広場、カトマンズ)

広場の角に位置している小さな寺院から入り組んだ巨大な寺院へと変化している宗

to a huge temple complex are scattered throughout the city. Compare to *Stupa* and *Shikara* style, *Pagoda* style temples are quite common (Fig. 2). Brick facade, wooden beams and posts and tiled roofs are widely used in residential architecture.

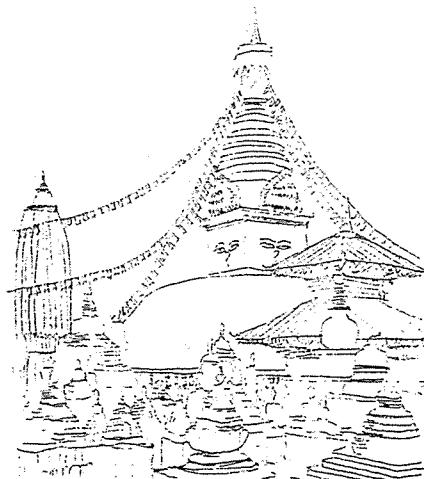


Fig. 2. Coexistence of all three types of religious architecture in the same complex of Swyambhu, Kathmandu

Various socio-cultural activities as well as conservation of building structures are managed through an institutional called *guthi* (trust) - either public or private.

After the great earthquake of 1833 (1890 B.S.), axial roads focusing at Rana Priminister's palaces (European style) were introduced at various part of the town.

Besides cultural, commercial and political center, many *push and pull* factors have caused the migration of people to Kathmandu from all over the country. Peripheral agricultural lands have been converted into sites for new construction. Destruction of individual building has accelerated in the historic area. Lack of any planning standard the works carried out by local real estate company in parceling of lands and layout of street network are unscientific and below minimum standard. The government's study on Physical development plan of Kathmandu Valley carried out in 1969, 1976 and 1984 has never been realized. Recently *Guided line development* and *Land pooling* have been implemented in urban area with minimum degree of success.

Land and buildings are hereditary property and posses a high *sentimental value* in the society. Partition of a single traditional

教的建造物は、都市のいたるところに分散されている。「ストゥーパ」と「シカラ」の様式に比較すると、「バゴダ」様式の寺院はほとんどが共通している。(図2)

煉瓦造りの正面、木製の梁や柱、タイル造りの屋根というのは、幅広く居住用の建築物に利用されている。

図2 3様式すべてが共存している宗教的建造物、スワヤンブと同じ構造のもの(カトマンズ)

建築物の構造の保存維持と同様に、多様な社会文化的活動は、それが公共あるいは非公開のいずれであるにしても、グーチ(「信頼」の意)と呼ばれるひとつの組織化された宗教を通じて管理運営されているのである。

1833年(1890 B.S.)に起こった大地震のあと、ラナ首相の官邸(ヨーロッパ式)のある焦点が集まっている軸のような道路は、街の様々な部分で導入されている。

文化的・商業的・政治的な中心であるというほかにも、数多くの「駆け引き」の要素が国中のいたるところからカトマンズへと人々を移住させる原因となっている。周辺の農業用地は新しい建築物のための敷地に変えられてしまっている。個々の建築物の破壊は、歴史的に有名な地域で急速に進んでいる。いくつかの標準の計画に欠けているのは、その仕事が一画の土地において地元の不動産会社によって成し遂げられたことであった。そしてまた、道路網のレイアウトは非科学的で最小限の標準以下というものであった。カトマンズ渓谷の物理的な発展計画における政府の調査研究は、1969年、1976年、1984年に実施されたが、それは決して十分に理解されてはいなかった。近ごろ、「発展の指針と共同出資の土地」は成功の最小限の段階で都市の地域で実行されている。

土地と建物は世襲財産であり、社会の中ではひとつの高度な「感情的価値観」をもつものである。2~3件の一戸建ての伝統的な家の間仕切りは、特に目立ったものではない。

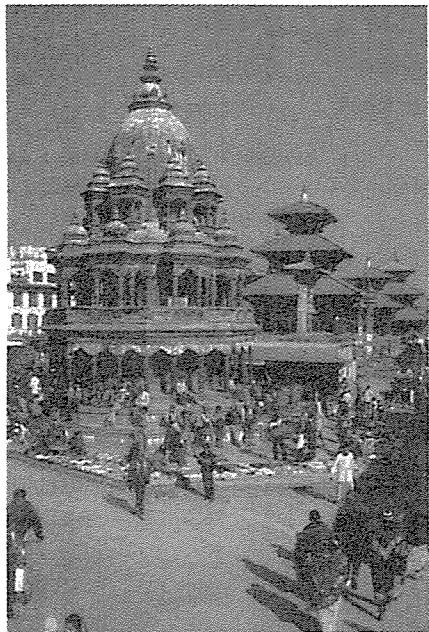
house into two or three is not uncommon when it is transferred from parents to their children. As land value is very high, the only practical way to fulfill the demand of more spaces is to develop vertically either by reconstructing the traditional (partly) building or by adding new floors on the existing one with different design, style and material. All above mentioned activities have an adverse effect not only on physical fabric but also on socio-cultural activities thus threatening the status of the city under the World Heritage List.

Urban development problems of Kathmandu City are not only of physical nature but also of socio-cultural character. Traditional values and management system need to be revitalized. Equally important is to educate the local community and to involve them in city development process.

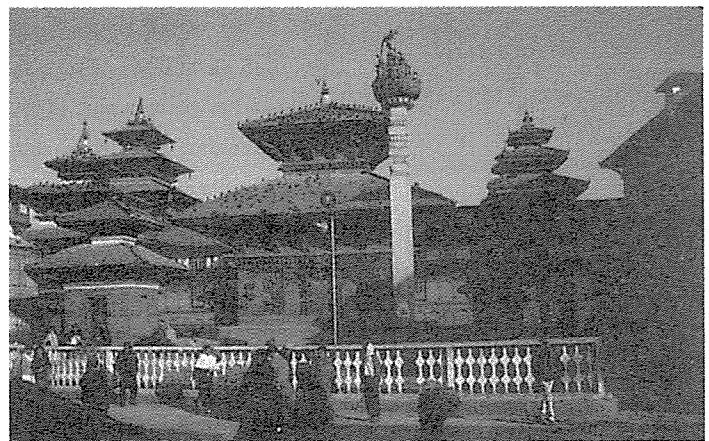
Bijaya K. Shrestha

それは親から子どもへと譲り受けられるのである。土地の価値が非常に高いので、いっそう多くの土地の需要を満たすために唯一の実用的な方法は、（ある程度までは）伝統的な建築物を復元することによって、あるいはまた、異なったデザイン・様式・素材で現存する建築物に新しい階をつけ加えることによって、いずれにしても垂直に発展させるべきだということである。ここまでに言及された活動のすべては、相反する効果をもたらしている。それは物理的な構造においてというだけではなく、このように、「世界遺産一覧」に属す都市の現状を脅かしている社会文化的な活動においてもまたいえることなのである。

カトマンズ市の都市発展の問題点は、物理的な自然であるだけではなく、社会文化的な特質であるともいえる。伝統的価値観と経営システムは、活性化される必要がある。と同時に、重要な点はその土地の地域社会を育成するべきであり、そして、都市の発展過程の中にこうした地域社会を関連づけるべきなのである。



Street aligned with temple architecture is used for multi-purpose functions in Patan



Hanuman Dhoka Palace in Kathmandu (Old palace complex)



Public square is used for multi-purposes in Bhaktapur



Goods displayed outside the street in main urban area of Kathmandu

香港の都市開発： ふたつのプリズム を通しての考察

ビジャヤ・K.・シュー

レスター

東京大学都市デザイン研究室

Hong Kong has a *high-rise high-density* urban structure which possesses problems for designers but opportunities for developers. To deal with the huge influx of population in the territory, the government has been reclaiming the land from the sea since 1840. The 1903 Town Planning and Public Health Ordinance was amended in 1935 and in 1939.

Planning study of Patrick Abercrombie in 1947, establishment of Hong Kong Housing Authority in 1954 and radical change in Town Planning Ordinance in 1955 (Building volume relaxation) were concrete measures taken in post war era to address urgent socio-economic needs of the society. Furthermore the government in 1972 launched Ten Years Housing Program and New Town Development.

The Territory Development Strategy of 1984, the Port and Airport Development Strategy Study (PADS) of 1989, Metroplan of mid 1990's and amendment of Town Planning Ordinance in 1991 all reflect the government's intention for the long term urban development management in Hong Kong. Economic restructuring in the 80's and early 90's has resulted massive physical transformation in Hong Kong.

Urban policy formation, direction of growth and implementation of various development projects are jointly performed by the government and the private sectors. The government intervenes on the market by supplying housing (50% of total population live in public housing), regulating public transport and providing social services particularly in education and health. On the other hand private sectors supply goods and other services for the market.

Hong Kong offers many advantages for

香港は「高層建築」・「高密度」の都市構造をもっている。その構造というのは、ただ開発者にとって好機だというだけのことであって、設計者にとっては課題なのである。

その行政区のなかでは人口の膨大な移入に対処するために、政府は1840年以来ずっと、海洋から陸地を埋め立て開発している。1903年の「都市計画」と「公衆衛生条例」は1935年と1939年に改正された。

1947年のパトリック・エイバーコロンビー氏による都市計画研究、1954年の香港住宅庁の設立、そして1955年の都市計画条例の徹底的な変革（建築物の量感の緩和）は、その社会の切迫した社会経済的需要に取り組むために、戦後の実績を受入れた具体的な基準であった。そのうえさらに、1972年に政府は10年住宅計画とニュータウン開発に着手した。

1984年の地域開発戦略、1989年の港と空港の開発戦略研究(PADS)、1990年代半ばの都市計画、そして1991年の都市計画条例の改正といったすべてが、香港での長期間にわたる都市開発経営に関して、政府の意向を反映している。1980年代と1990年代初めの経済の再構築は、香港における大規模な物理的変革という結果をもたらした。

都市政策の成立、発展の傾向、多様な開発計画の密接な関係というのは、政府と民間の両方の領域によって、共同で成し遂げられる。政府は市場に介在するのだが、それは住宅を供給すること（総人口の50%は公団住宅に居住している）によって、公共交通手段を統制することによって、そしてまた、特に教育と衛生に社会的なサービスを提供することによって、介在するのである。一方、民間の領域は市場に商品や何かのサービスを供給する。

香港は民間領域の投資対象として数多くの好結果を提示する。すなわち、政府の積極的な内政不干渉主義者の政策と均衡のと



Buildings with varying tops sometimes constitute an interesting skyline



Urban street in Hong Kong- War of signage and advertisement

private sector investment: government's positive noninterventionist policy and balanced fiscal policy, free market economy, an environment of entrepreneurial freedom, low tax rates, relative stability of domestic prices etc.

Natural land constraints (only 15.6% built up area and the rest inhabitable lands), large number of immigrants from China, the colonial status of the Territory (until June 30, 1997) government's dependency on land sale revenue (about one third), export oriented open economy, (uncertain external factors), underdeveloped public advocacy on planning and urban design etc. have produced a unique spatial situation on urban planning and development in Hong Kong. Critical decisions during planning and design are influenced more by quantitative aspects such as cost, density, engineering capacities etc., and less by qualitative considerations such as permeability, legibility etc.

The government's development policies are quite successful for dramatic economic growth in Hong Kong. However they are biased towards the social and environmental objectives and also lack wider public involvement. As a result the built form has a mix morphology (Fig. 1) which is in a state of

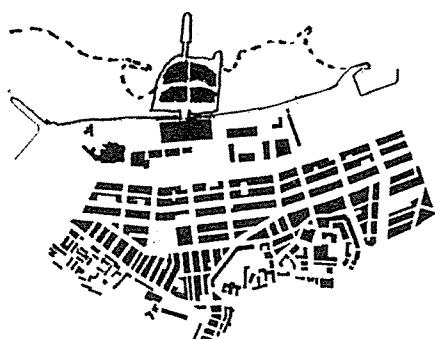


Fig. 1 Distinct urban fabric reflecting different time of land reclamation from the sea in Central Wan Chai

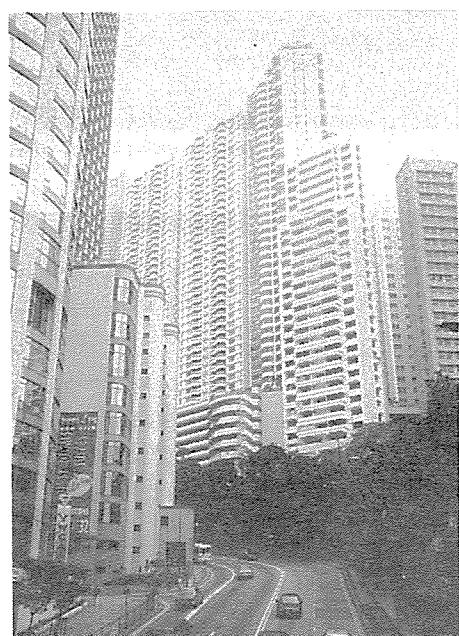
図1 中環・湾仔における、海洋からの土地再開発の異なる時期を反映した、明確な都市構造

constant change. Huge land reclamation throughout the territory, lack of meaningful public spaces within the city, buildings blocking the harbor and mountain views, destruction of natural and historical precincts, vehicular traffic domination at grade level etc. are the outcome of government's demand led planning approach with minimum environmental regulations.

れた財政の政策、自由市場の経済、実業家の自由をとりまく状況、低い税率、香港での物価の相対的な安定性、等々。

本来の土地の制約（わずか15.6%だけが市街地とその他の居住に適する土地である）、中国からのかなり膨大な数の移住者たち、イギリス属領の直轄地（1997年6月30日まで）としての香港総督府の土地売買収益（約3分の1）への依存、開放的経済に適応した輸出、（不確実な対外的因素）、都市計画と都市設計に関する低開発の公的見解、等々は、香港における都市計画と都市開発の独特的地理的状況を生み出している。計画と設計とのあいだの切磋琢磨した決定というのは、費用、密度、工学技術の力量等々、といったような量的外観によって、いっそう影響されるのである。そしてまた、透過性、読み取りやすさ等々、といったように質的な考慮すべき点によって、少なからず影響されるのである。

政府の開発政策は、香港におけるドラマチックな経済成長に、事実上の成功をもたらした。しかしながら、それらの政策は社会的で環境的な目標や、そしてまた、公共の財政困難のいっそう広範囲な欠如のほうへと偏っている。結果として、その構造形態は、絶え間なく続く変化の状態の中にある、ひとつの混合形態学（図1）となっている。香港中のいたるところにある巨大な土地の再開発、都市・港をさえぎる建築物・山の眺望といった中に存在する意義のある公共空間の不足、自然な、そして、歴史的な周辺地域の破壊、同一階級の水準での乗り物の交通統治、等々といったことは、最小限の環境規定とともに政府が掲げた「計画提案の指導要求」の結論である。



High rise monotonous residential architecture

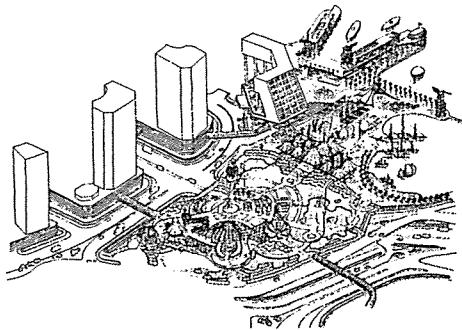


Fig. 2 Recent Harbor Protection Ordinance may delay or change the remaining two phases of developments in Central Wan Chai Reclamation Project

Nevertheless government's recent introduction of Town Planning White Bill (1996), Harbor Protection Ordinance (1997) (Fig. 2) coupled with public interest on democratic value and participation in city development task indicate a new phase in urban planning in Hong Kong.

Land use planning and development strategy of Hong Kong Special Administrative Regions under *one country two systems* in post 1997 period is no longer independent but a part of large urban system. Hong Kong needs a balance approach in urban development strategy taking public confidence and capturing huge Chinese market. Urban design criteria should be incorporated in development process at various levels to integrate its vibrant city life and natural setting with built environment. Economic success coupled with environmental aesthetic improvement can make Hong Kong *Gateway to China in the 21st century*.

図2 最近の港湾保護条例は、中環湾仔の再開発計画における、開発の二段階の存続を、遅延するか、あるいはまた、変更する場合があるかもしれない。

それにもかかわらず、政府による「都市計画ホワイト・ビル」(1996年)、「港湾保護条例」(1997年) (図2)の最近の緒言は、民主的な価値観において一般大衆の関心と結合するものであったし、都市開発の課題への民主的な参加においても香港における都市計画でひとつの新たな段階を示唆するものであった。

1997年以降の時代には「一国二制度」のもとに香港特別行政区の土地利用計画と土地開発戦略は、もはや独立してはいないが、しかしながら、広範な都市制度の一部となる。香港は、一般大衆の信頼を得ることと巨大な中国市場を獲得することといった都市開発戦略に、均衡のとれた取り組み方法を必要としている。都市設計の特徴は、その敏感な都会生活を統合するための多様な水準と、そして建設環境をともなった自然な設定とで、開発過程の中に組み込まれるべきである。環境の美的な改善と結合した経済的な成功は、香港を21世紀には「中国の玄関」にさせることであろう。

特集

3

ハノイ：都市開発と都市設計における新たな挑戦

ファン・チュイ・ロ
アン
東京大学都市デザイン研究室

Hanoi - the administrative capital city of Vietnam, was built along the Red river, within a network of lakes, canals and dykes. The economy of the city is now rising up so brightly that it is longing to become one of great Asian metropolis and a center for international trade. Therefore, urban modernization is being formed and calls for new trials, new orientation to develop the city, at the same time preserve its historical heritage and cultural identity.

Urban structure of Hanoi city

Hanoi has very long history date back from nearly 1000 years ago. In the city located areas with their own socio-economic and physical characters that make the city structure very legible: The Ancient Citadel, the 36 streets-quarter, the French quarter,

ベトナムの行政上の首都であるハノイは、湖・運河・水路のネットワークの範囲内で、紅河にそって築かれた。この都市の経済は、現在、非常に輝かしい成長のさなかにあるので、重要なアジアの大都市のひとつになること、そして、国際的な貿易のためのひとつの中核地になることを熱望している。したがって、都市近代化は形作られつつあり、そして新たな試みや、都市を発展させるための新たな方向性が要求される。同時に、その歴史的遺産や文化的個性を保存するのである。

1. ハノイ市の都市構想

ハノイは非常に長い歴史をほぼ1,000年の昔に遡る。その都市には、その独特の社会経済的で物理的な特徴をもつ特有の地域があり、そうした地域は都市構想を非常に読み取りやすくしている。すなわち、古城、

The Hoan Kiem lake center situated between the 36 street-quarter and the French quarter, with the nice space surrounding a lovely small lake, it is the heart of the city, a gathering place of people and activities from long time ago.

Beside the above mention, the structure of Hanoi is also contributed by other special areas and residential districts. Among that, modern area has been constituted as a ring belt made by blocks of flats and industrial buildings which strongly assumed the character of Soviet Union and Eastern European architecture imported into Vietnam during 70,80 decades.

Urban characteristic of the city

Hanoi is a crowded city with high density and mixed use land. Private transportation such as bicycle, motorbike are prevail. From the view point of foreigners, Hanoi is a vivid city where variety commercial and services activities happen along streets. It is the city of water surface, of lakes and canals, of greenery and low-rise architecture existing in harmony with surrounding nature and relevant to human stature as well as local tropical climate.

However, since 1986 when "Doi moi" policy was born along with the shift from centralized economy into marketing one, changes in city structure and architectural appearance have been taking place. With high urbanization speed and constructing flux, large parts of agricultural land has gradually transformed into residential district by residents

れどおり、緑豊かな庭園の影の中にたたずんでいて、そして代表的なルネサンス建築の様式を有している。

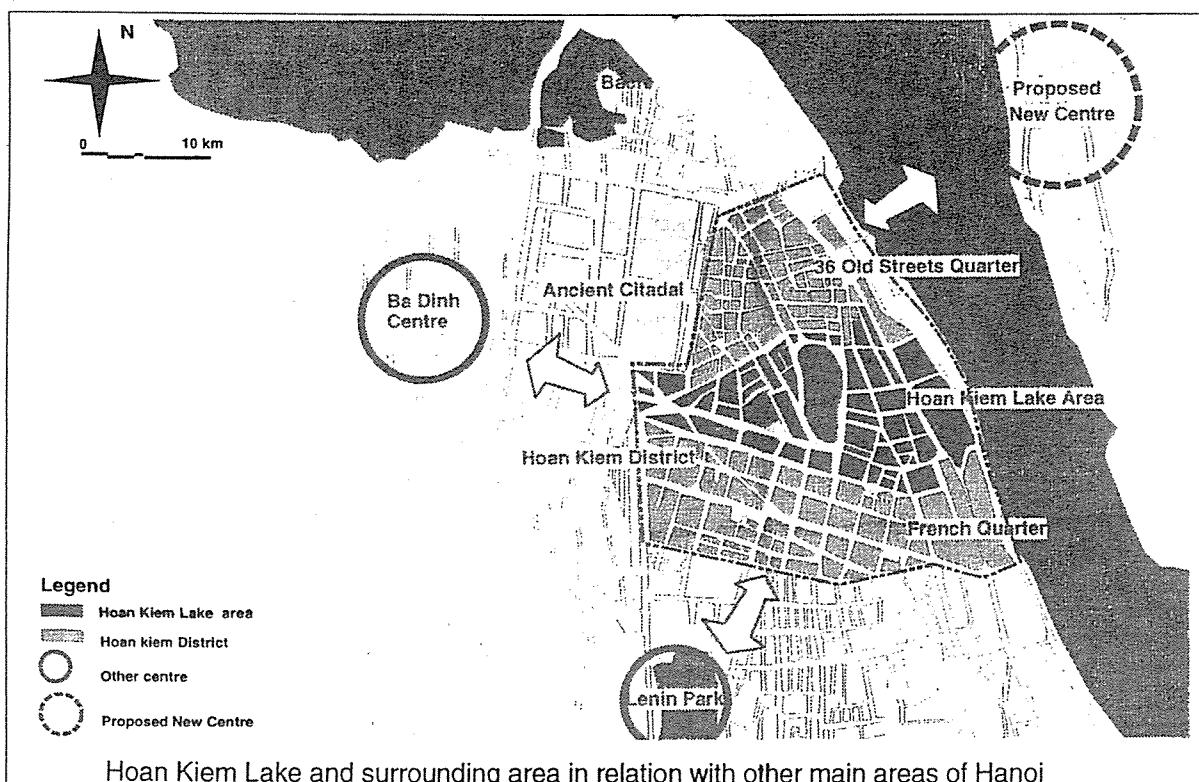
「ホアン・キエン湖センター」は、36の露店街とフランス租界の間に位置しており、美しくて小さな湖に取り囲まれた好条件の空間を所有している。そこは都市の中核であり、人々の集う場所であり、そしてかなり古い昔から活動の場であった。

そのうえ言うべきことを付け加えると、ハノイの構想はまた、他の特別地域と居住に適した地区とによって貢献を受けている。そうした状況の中で、近代的な地域は平らなブロックによって作られた環状地帯として設置されている。そして、工業用建造物は、1970年代と1980年代の20年間にベトナムに輸入されたソビエト連邦（現・ロシア）や東欧の建築物の特徴を強く反映している。

2. ハノイの都市的特徴

ハノイは高密度で雑然とした都市であり、土地を雑多に利用している。自転車のような個人的な交通手段である小型バイクが流行している。外国人の視点からは、ハノイは様々な商業的広告とサービス活動が通り沿いに展開している躍動的な都市である。ハノイは、水上の都市であり、湖と運河の都市であり、緑樹とそして、自然に取り囲まれて調和がとれていて、その地方特有の熱帯気候と同様に人間的な懐の広さに関連した、そういう活気に満ちた1~2階建ての低い建物をともなった都市なのである。

しかしながら、「ドイ・モイ」政権が中央集権経済から市場売買経済への変遷と一



without any controls. The liberalization of private property and the right to build have also set favorable condition for people to improve their accommodation and support themselves with their owned houses. Beside the good side of that, private houses and 5-8 story mini hotel with narrow facade mushroomed everywhere. Since they have diversity of styles, scales and decoration details copied from East to West, mixed of tradition and modern, they have put bad influence in city's panorama whereas no proper attention was paid to infrastructure improvement and enhancing public spaces.

the Badinh political center, Hoan Kiem lake center, West lake area and others residential districts.

The ancient Citadel was built on a square plan (set back from the river) in 1010 (former time of the city) by King Ly Thai To. Up to now, just a few remains of surrounding wall and the layout inside forbidden city can be seen.

The Badinh political center located inside the original boundary of the Citadel area, where President Ho Chi Minh's Museum and Tomb, Political conference Hall, National Hero monument and other governments agencies locates. It also encompasses a vast plaza for solemn activities of the city and the whole nation.

36 streets-quarter is a distinct place of merchants which was formed from the 15 century. Each street gathers various activities of particular craft and commerce. The parcel network was made of long and narrow strips of land perpendicular to street. On each land plot located an one or two-story house which occupy all most the whole surface of the plot. The facade of houses are so narrow that they have been called with a typical name "tube house". The quarter is renown not because of individual architecture but the maintenance of the historical urban structure and lifestyle.

The French quarter is a beautiful area constructed by French people during the colonial time. There are straight avenues lined with large planted pavements. The colonial villas are covered with yellow coating, laying in the shadow of green garden and possess typical Renaissance architectural style.

Hanoi- the Master plan to 2010- new opportunities and challenges in Urban development and urban design.

Nowaday, Vietnamese urban specialists and experts have come up with the concept of Urban design in

緒に誕生した1986年以来、都市構想には変化が生じており、建築上の外観にはずっと変化が起こり続けている。高度な都市化現象のスピードと絶え間ない変化の構成をともなって、農業地の大部分は、いかなる調整もなしに居住者によって、徐々に住宅向きの区域に変換されてしまっている。個人的な所有財産および建築に対しての権利の自由化はまた、人々の便宜を向上させることや、個人の家々で所有者自身を支援することといった、人々にとっての好条件を取りつけている。そうした好ましい側面に加えて、個人の住宅と5~8件の通りに面した入口の狭い小さなホテルはいたる所に急速に増えた。そういうた住宅やホテルが、様式、規模、そして、伝統と近代性の混じり合った、東洋から西洋へと模倣された装飾の細部、といったものの多様性を合わせ持つて以来、それらの住宅やホテルは、都市の外観に悪影響を及ぼしてしまっている。ところが事実は、基盤施設の改善や公共の区画とを見ることができる。

「古城」は、キン・リー・タイ・ト氏によつて、1,010年（都市の以前の時代）に（川からセットバックした）街計画に基づいて建てられた。現在にいたるまで、取り囲んでいた城壁のごくわずかな名残りと、そして立ち入り禁止とされた都市の内側の区画とを見ることができる。

「バディン行政センター」は、その城の区域の最初の境界線の内側に位置しており、そこには、ホー・チ・ミン大統領の美術館と靈廟、国政会議場、国民的英雄の記念碑、そして、他の政府が設置されている。それはまた、都市とすべての国民の神聖な営みのために広大な広場を包含している。

「36の露店街」は、15世紀から形成された商人たちの独特な場所である。各々の通りには特別な技能と商売の様々な活動が集まっている。その区画のネットワークは通りに垂直の土地で長くて狭い街路を作り出した。各々の土地の区画では、その区画に1~2階建ての建物が設置された。こうした建物はその区画の表面全体の大半を占めている。建物の正面は非常に狭いので、ずっと「チューブ・ハウス（「管のようく細長い家」の意）」という象徴的な名称で呼ばれている。その地区は個人的な建築物によってではなく、歴史的な都市構想と生活様式の保存によって名高いのである。

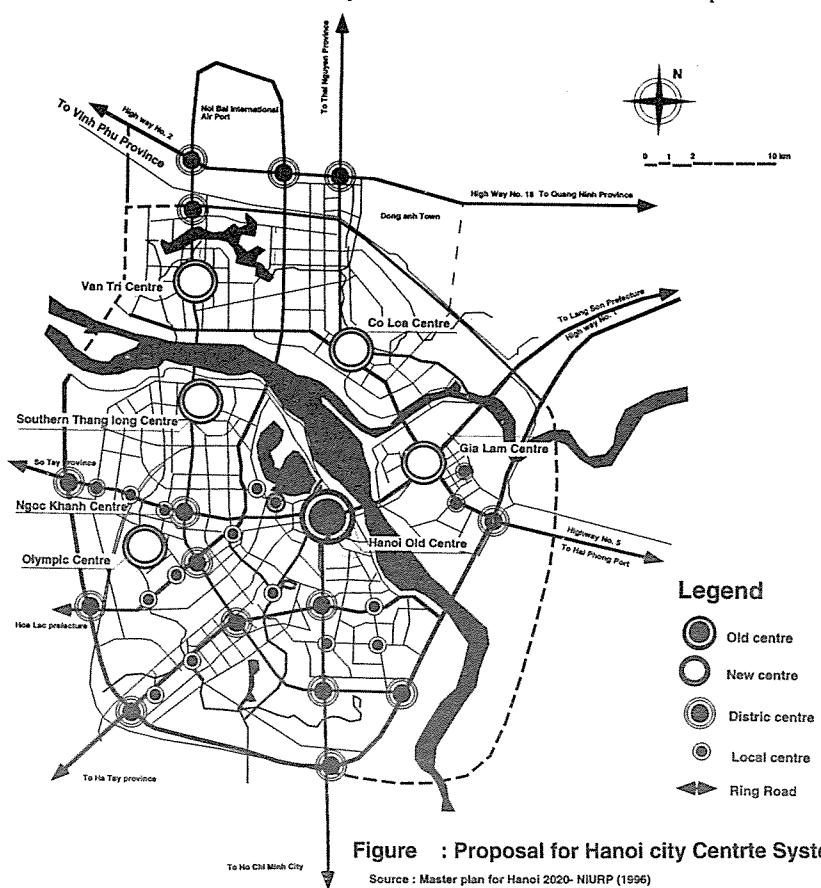
「フランス租界」は、植民地時代にフランスの人々によって建設された美しい街並みである。その地域には、歩道に大きな樹木を一列に並べた真っ直ぐな大通りがある。植民地時代の大邸宅は、黄色い塗料で覆わ

the urbanization process. Hanoi now understand that it has to achieve 2 objectives : civilization, modernization and at the same time preservation it owned historical and cultural heritage.

Since the economic situation became brighter, with favorable geographic location, with the role as a political and economic core, with political stability and open economic policy, Hanoi has attracted hundreds foreign investment projects especially in industrial sector. GDP growth rate reached 12% in 1995 and to be forecasted 15% in 2010 that lead to opportunities for development, expansion and city design. An announcement regarding city prospect:

"Hanoi- respect our history, construct our future ... to become a lively city beside the Red river and create better life for all citizens"

has been popularized. Government, city municipal and specialists are promptly completing the city Master plan to 2010. A comprehensive analysis and assessment on current situation has been done to define difficulties and potentials for future development. The Master plan designates individual areas in which new development should be located or should be constrained. The areas representing the image of the city, including the Citadel, the 36 street quarter, Hoankiem center, French quarter, Hai Ba Trung district, Badinh political center and certain parts of West lake are decided to be preserved.



空間を増やすことに対して適正ではない注意が払われた。

3. ハノイー 2,010年へ向けての基本計画 —都市開発と都市設計における新たな好機と挑戦

現代では、ベトナムの都市専門家や達人は、都市化現象の過程の中に都市設計の概念を提案している。ハノイは現在、二つの目標を達成しなければならないということを理解している。その目標というものは、すなわち、文明と近代化であり、同時に歴史的・文化的遺産の保存である。

経済的状況がいっそう輝きを増すようになって以来、地理的な好条件で、政治的・経済的中心地としての役割を担って、政治的安定と経済的開放政策で、ハノイは、とりわけ工業区域で、幾百もの海外投資計画を魅了している。国内総生産（GDP）の成長率は、1995年には12%に達した。そして、発展・拡張・都市設計に関する好機に恵まれ、2,010年には15%に達すると予想されている。

都市の将来の見通しに関する発表は、次のとおりである。

「ハノイは、我々の歴史を尊重し、我々の未来を建設する... 紅河のそばで澆刺とした都市になるために、そして、すべての国民にとってより良い生活を創造するために。」

この発表はすっかり普及している。政府、自治都市、そして専門家たちは、2,010年に向けての都市基本計画を迅速に完成しつつある。現況における総合的な分析と評価は、将来の発展のために、困難と可能性とを明確にするよう、うまく事を運んでいる。その基本計画は、新しい開発が設定されるべきであるか、あるいはまた、強要されるべきであるといった個々の地域を明示している。都市のイメージを表現している地域、古城を含んでいる地域、36の露店街、ホアン・キエン湖センター、フランス租界、ハイ・バ・トルン地区、バディン行政センター、そして西湖のある一定の部分というのは、保存されることが決定している。文化的な継続とベトナムの独自性の中で非常に重要な、それらの地域の役割は、誇張されではないのである。もしも、私たちが自らの開発過程の間で、そのような地域を荒廃させがあれば、私たちの歴史の重要な部分は永遠に失われてしまうことであろう。世界的な傾向の中で、経済活動は都市の中核に集中し、世界中の都市がお互いに、投資・職務・経済成長を促すための、その独自のイメージを強化するために競争するのである。これらの地域の存続は、事実上、

Their crucial role in cultural continuity and Vietnamese identity is not exaggerated. If we ruin such areas during our development process, parts of our history would be lost forever. In global tendency that economic activities centralized in urban cores, cities all over the world compete each other to consolidate their own image in order to induce investment, jobs and economic growth, the existence of these areas is virtually necessary.

Take the 36streets quarter as an example, several objectives are set up:

- Decrease the area population density
- Improve people living condition
- Take out motor transportation out of the area to establish pedestrian and retail area
- Private house is not allowed to build over 3story high...

For the French quarter, some high-rise building are permitted in definite sites but careful study has been made in height, scale and architectural style to eliminate bad aesthetic effect to the whole area. We can see several success examples such as : Hanoi tower, Industrial and Commercial bank, Sofitel hotel... in the city.

The Master plan also proposes the formation of a new center for Hanoi. It is designated to be a financial, commercial and international exchange center, integrated with the existing center system of the whole city. The selected site for new center is a square area of 800ha located between Thang long east highway and the huge West lake. New development will be thoroughly encouraged to meet future demand of the economy. New center is considered a big challenge of the city development and design, calls for a new image of Hanoi but still ensure urban continuity and cultural distinction. T.V. tower, embassies, high-rise building are intended to put over here. A skyline for the city is also studied cautiously to reach beautiful view from far distance.

Apart from huge project as mentioned above, several experiences in urban design such as new road design, public flower garden, park and public space around lakes have put into practice and harvested promising result.

Even not many successful example can be listed here, it is just an initial stage of development process, the path to future is very long and hard, but hopefully Hanoi city can achieve its own character and success.

必要なのである。

ひとつの例として、36の露店街を取りあげると、いくつかの目標が次のように提示される。

- 人口密度の高い地域を減少する
- 人々の居住条件を改善する
- 歩行者と小売りの地域を確立するため、その地域の外に自動車用の交通機関を設定する
- 個人の住居は3階建て以上の高さに建てるなどを許可しない…

フランス租界に関しては、いくつかの高層建築が範囲限定の敷地内に許可されているのだが、その地域全体に対して外観の美しさを損なう恐れのあるものは排除するよう、建築物の高さ・規模・建築様式に、慎重な調査が義務づけられている。私たちは次のように、いくつかの成功例を見ることができる。すなわち、都市の中にある、ハノイ・タワー、産業と貿易の銀行、ソフィテル・ホテル…である。

基本計画はまた、ハノイにとって新しいセンターの構成を提唱している。それは、財政的な、商業的な、そして国際的な為替センターであることを明示しているし、都市全体の現存するセンター・システムで統合されている。新しいセンターの選りすぐられた敷地は800ヘクタールの一区画の地域にあり、その地域はタンという長くて東へ延びているハイウェーと、巨大な西湖との間に位置している。新たな開発は将来の経済需要に見合うように入念に促進されるであろう。新しいセンターでは都市開発と都市設計の大きな挑戦が熟考されており、さらに都市の継続と文化的特徴を保証するという以外の、ハノイの新しいイメージが要求されている。テレビ塔、大使館、高層建築物は、新しいセンターから離れた位置にする予定とされている。この都市に関するスカイラインもまた、遠い距離からの美しい景観に達するよう、注意深く調査研究されている。

上述のように壮大な計画を別にして、新しい道路設計、公共の花の庭園、公園、湖のまわりの公共の空間といったような、都市設計におけるそれぞれの経験には、実行への努力が傾けられており、将来有望な結果を収めているのである。

たとえ、数多くの成功例がここに挙げられることはないにしても、それがちょうど開発過程の最初の段階であり、未来への道が非常に長く険しい道であっても、しかしながら、希望をもって、ハノイ市は自ら、その名声と成功に到達することが可能であろう。

韓国における都市デザインの現況

李 政炯

東京大学都市デザイン研究室

1 はじめに

韓国における「都市デザイン」が本格的に議論され始めたのは、1970年代の後半のことである。1980年1月には建築法の第8条2に「都心内部の建築物に対する特別規定」が設けられ、都市デザインが制度化されることになった。この設計制度は個々の建築物単位の規制を地区単位の総合的なコントロールに拡大するという視点から出発している。これは当時都市設計制度の導入を主導した建設部住宅局建築課の関心を反映するものでもあった。

一方、時期を同じにし、建設部都市局都市計画課では、既存の用途地域地区制の限界を乗り越えるための地区計画制度の導入が検討されていた。以後、10年近くの議論の末、1991年都市計画法の改正により「詳細計画制度」が導入された。

その結果、都市デザインを取り巻く類似の二つの制度（都市設計制度、詳細計画制度）が共存することになり、これらの制度の性格と位置づけ、役割等に関する再検討が必要であると言える。

このような状況で、本論では韓国における都市デザインの現状を制度論的観点から、その概要、推進状況等を紹介することにする。

2 時期別都市デザインの類型

韓国における都市デザインの類型は、1)幹線道路沿線の都市設計、2)特定地域(Special Districts)の都市設計、3)新市街地の都市設計、4)新都市の都市設計、5)駅周辺部の都市設計に分類することができる。

表-1は、これらの各類型の都市設計の目標並びに特徴を整理しているが、時期別の都市設計手法の特徴をまとめると、

- 1) 1980年代前半には、1980年の建築法の改正により導入された都市設計制度の多様な実験がなされた時期であり、地区的保存と幹線道路沿線を対象とする都市設計手法が展開された。
- 2) 1980年代後半になると本格的に始った新都市(New Town)の建設に伴う都市設計手法がなされることになった。
- 3) 1990年代前半には、1991年都市計画法の改正により導入された「詳細計画制度」により行政主導による制度的都市設計制度が本格化されることになる。
- 4) なお、1990年代後半には、自治体行政が始まり、駅周辺部（韓国では「駅勢圏」という）等を対象とし自治体主導の都市デザインが展開されることになった。

3 都市設計制度と詳細計画制度

先述したように、韓国では都市地域を対象とし、都市計画法及び建築法による2つの法的体系（都市設計制度、詳細計画制度）によりコントロールされている。

ここでは、この2つの制度の法的現況を比較・分析し、その特性を明確にすると同時に、これらの制度がどのように活用されているかをソウル市を中心に調べた。

3-1. 制度の比較・分析

①根拠法と目的

「都市設計制度」は、地区指定の根拠は都市計画法第18条に基づき、地域地区制の中の一つの種類の地区であるが、地区的運用に関する事項は建築法第8章の第60条及び第63条に基づいており、その根拠法は建築法である。一方、「詳細計画制度」は都市計画法第20条3による地域地区制の中の一つの区域に規定されており、その運用に関する事項も都市計画法及び施行令に定められている。したがって、その根拠法は都市計画法である。

なお、これらの制度の指定目的を要約すると、「都市設計制度」は“都市の機能及び美観の増進”を目的に建築物及び公共施設の位置、規模、用途、形態等、具体的な建築物のコントロールに関連した建築法的手段の性格を持っている。また、「詳細計画制度」は都市設計制度で意図している“

表-1 時期別都市設計の類型

| 類型 | 目標と特徴 |
|--------------------------------|---|
| 幹線道路沿線 | |
| 1) 第1期幹線道路沿線 (1984年前後) | <ul style="list-style-type: none"> ・幹線街路沿いの環境整備及び都市美観の増進 ・特定街路の都市設計の可能性提示 ・既存の都市整備と自治体（区）の都市設計 ・既存市街地の多様な変化に対応 |
| 2) 第2期幹線道路沿線 (1995年前後) | |
| 特定地域(Special Districts) | |
| 1) 第1期特定地域 (1984年前後) | <ul style="list-style-type: none"> ・主に歴史的市街地の保存を対象とするガイドラインの提示 ・特定地域を対象とした即地的都市設計手法の必要 ・特別事業区域に指定された区域を対象に民間側との調整 （時期、開発形態、用途等） |
| 2) 第2期特定地域 (1990年前後) | |
| 新市街地の都市設計 | |
| 1) 第1期（1980年台中～後半） | <ul style="list-style-type: none"> ・新市街地に対する建築的ガイドラインの提示 ・新市街地の中心地区に対する開発プログラムと建築指針の提示 |
| 2) 第2期（1980年台後半～1990年代初） | |
| 新都市の都市設計 | |
| 1) 都市設計型（1994年以前） | <ul style="list-style-type: none"> ・新都市の宅地開発 |
| 2) 詳細計画型（1994年以後） | |
| 駅勢圏の都市設計 | <ul style="list-style-type: none"> ・都市計画の変更による用途地域の変更時、地区の特性に配慮した詳細計画又は都市設計地区に指定し、建築部門、公共部門のガイドラインの提示 |

都市の機能及び美観の増進”だけではなく、その他にも“土地利用の合理化、都市の環境の効率的維持・管理”を目的とする包括的意味の空間計画としての都市計画法の手段の性格が強いと言える。

②対象区域

都市設計地区は、地区指定の対象区域に関する特別の規定ではなく、“都市計画区域の中で公共の秩序都市機能の増進のため必要とされる区域（都市計画法18条）”に対し、都市設計制度の指定目的に従い市長、郡首が任意に指定することができるようになっている。

これに対し、詳細計画の対象区域は都市計画法で定められた“宅地開発促進法による宅地開発予定地区、産業立地及び開発に関する法律による工業団地造成事業地区、都市再開発法による再開発区域（以上、法20条の3）、以外にも施行令に定めている“土地区画整理事業施行地区、市街地造成事業施行地区、鉄道駅を中心半径500m以内の区域（以上、施行令19条の8）”等5つの都市開発事業区域と1つの駅勢圏地域を対象とすると具体的に限定しているのが特徴的である。

③法的位置づけ

都市設計制度が既存の都市計画下で建築物に関する基準を具体的に提示する建築条例の性格を持っており、都市計画法と建築法の下位概念であるのに対し、詳細計画制度は、1) 地域地区の指定と変更、2) 都市計画施設の配置と規模、3) 街区及び画地の規模と造成計画等に関する事項を立案し、都

市計画決定に基づくもので、都市計画決定と同一の法的位置づけを持つことになる。

④計画内容

都市設計制度は、既存の地域地区制の規定下で土地利用計画、交通計画、建築物に対する位置、規模、用途、形態、色彩、造景計画、既存の建築物の処理等、建築物に関する規制が主な内容である。

一方、詳細計画は、都市設計で取り扱っている内容以外にも地域地区の指定及び変更、都市計画施設の配置と規模等都市計画的な内容が包括的に含まれている。（具体的な計画内容は表-2参照）

⑤比較・分析のまとめ

表-2は、以上の2つの制度を比較・分析し、まとめたものである。表-2からもわかるように、都市設計制度は都市計画の空間的体系の中で、都市の機能と美観増進のため、地区の建築物の位置、規模、用途等を規制する内容と周辺地域を含んだ造景計画等、主に物理的環境のコントロールを行う建築的規制手段である。一方、詳細計画制度は、都市設計制度が規定する計画内容だけではなく土地利用の合理化、都市環境の維持・管理等、より都市計画的規制手段であると言える。

4 制度の運用実態

都市設計制度の限界から出発した詳細計画制度が都市計画法に導入され、本格的に活用されはじめたのは1995年～1996年のことである。

この際、新たに指定された詳細計画区

表-2 都市設計制度と詳細計画制度の比較・分析

| | 都市設計制度 | 詳細計画制度 |
|---------|--|--|
| 目標（法規） | 都市の機能と美観増進 | ・土地利用の合理化 ・都市の機能、美観、環境の維持 |
| 性格 | 地域の物理的環境特性のための建築規制及び外部空間の造成計画 | ・地域に対する都市計画の具体化 |
| 対象区域 | 都市計画区域内の必要な場所 | ・宅地開発予定地区、工業団地再開発地区 ・土地区画整理事業地区、市街地造成事業、駅勢圏地域 |
| 法定の法的意味 | ・都市計画施設は都市計画決定 ・建築物規制は建築条例性格 | ・都市計画決定 |
| 主要規制内容 | ・対象区域の土地利用計画、交通処理計画 ・建築物の位置、規模、用途、形態及び色彩等に関する規制計画 ・周辺地域を含んだ造景計画 ・既存建築物の処理計画 | ・地域・地区的指定及び変更 ・都市計画施設の配置と規模 ・街区及び画地の規模と造成計画 ・建築物の用途、建ぺい率、容積率等 |

域は全国的に100カ所を越えている（1996年11月、建設交通部）。しかし、全体の約8割が宅地開発事業区域に指定されたものである。その他には約18%が土地区画整理事業区域或いは産業団地開発地域等であり、既成市街地に適用されたのは、ソウル市の中の1カ所だけである。

一方1996年末からソウル市を中心に既成市街地の都市整備の物の詳細計画及び都市設計が活発に適用されはじめている。

1997年8月現在、ソウル市には53カ所の詳細計画区域と62カ所の都市設計地区が新たに指定され進められている。

ここで、既成市街地の都市整備の物の都市設計及び詳細計画の指定状況をソウル市を中心に調べることにする。

①指定状況

先述したように、ソウル市では1997年8月現在、17の自治体（区部）で62カ所の都市設計地区、19の自治体で53カ所の詳細計画地区が指定されている。すなわち、都市設計と詳細計画合わせて115カ所の地区に対して用途地域変更を含んだ詳細な計画が進められている状況である。

指定上の特性をみると、まず現在詳細計画の区域の対象が駅勢圏に限定していることから、駅勢圏ではない地区で用途地域の変更が必要な地域は都市設計地区が2元的に指定、運用されている。

②対象地域の性格

2つの制度の適用地区的地域性格別の特性を分類すると、1)駅勢圏整備性格、2)既存商圏拡大整備性格、3)新規地区中心育成性格、の3つの地域特性に分けられる。

また、駅勢圏整備性格の地域はさらに都市空間構成上の特性によって、地域中心、地区中心、生活圏中心駅勢圏に区分できる。既存商圏拡大整備性格とは既存の商圈周辺の整備及び商圈衰退地区の再活性化等のための地区である。

なお、新規地区中心育成性格とは、周辺にまだ地区中心を持っていない地区に対し

政策的に地区中心を育成するための地域を言うものである。

③対象地域の面積分布

制度が適用された地区的面積規模は、詳細計画制度が制定される以前の都市設計地区の面積規模の平均は581,553m²であるが、その後の新規指定の都市設計地区は平均約90,000m²である。また詳細計画区域は平均約200,000m²である。

このように、地区的規模が縮小されたのは、以前多様な性格を含んだ地区設定に対し同一の性格を持つ地域に対する具体的な整備目標の設定が可能であることを意味する。

なお、計画内容においても指定目的及び土地利用に関連した指針の詳細な利用検討が求められているとも言える。

5 まとめ

以上、韓国における都市デザインの現況を制度論的観点からレビューを行った。

韓国では、近年自治体行政の出発とともに、特に既成市街地を対象とした都市デザイン手法が本格的に展開されている。都市設計制度の場合、約10年の蓄積を、また詳細計画制度はここ2~3年の経験を持っているものの、現在全国的に100カ所以上が指定されている。

しかし、制度の運用上の問題点として、

- 1)都市設計制度と詳細計画制度という類似の二つの制度が2元的に行なっていることから概念上の混乱と運用上の限界があること、
- 2)現在の都市デザインの関連制度が、用途地域の変更を前提とした過度な開発計画の論議に集中していること、
- 3)実際に制度を運用する行政側の組織、人材の専門性が欠如していること等が上げられる。

今後、これらの限界を乗り越え、実効性のある都市デザイン行政の体制づくりが重要な課題であると言える。

「美化工程」の実施と都市形象の塑造

雷 翔

北海市人民政府副秘書長
・北海市城市計画局局長

1. 「美化工程」の背景

近年、人類の生存と環境問題が表面化し、人類の生活居住環境はグローバル的な課題として注目されている。都市は、その経済的発展の過程で環境の質・生態意識・文化品位・文明形象などが求められており、全体に均衡のとれた発展を実現することが世界各国の都市発展における共同目標としてますます重視されるにいたった。

北海市は、中国における第一次の14沿岸開放都市の一つに指定されたが、近年の開発によって中規模の都市に成長した。国家の経済調整政策と「二つの根本的変転」という方針の実施によって、北海市も都市の発展戦略と都市建設の重点を移転することを余儀なくされ、従来の大構架（基本的構造）を構築し大開発を推進することから、都市機能の完備・都市環境の整備・都市の質と品位の向上などに重点を移していくことになった。

北海市は、1996年に集中的に市区の環境に対して総合的な整備を行った結果、市民の都市意識・環境意識・文明意識が向上し、北海市の美化に良好な基礎を築いた。

2. 「美化工程」の目標と主要内容

「美化工程（美化運動）」は、北海市の社会経済発展と都市建設の現有条件下で、

「可持続発展」理論に従い、都市計画設計により緑化・美化を手段として用い、「都市環境の整備・都市機能の完備・都市品位の向上・都市形象の塑造」を指針にして、進んで投資環境を改善させることを目標とした社会工程（社会運動）である。

「美化工程」は新しい概念であるためにその計画策定にあたってはまだ参考にすべ

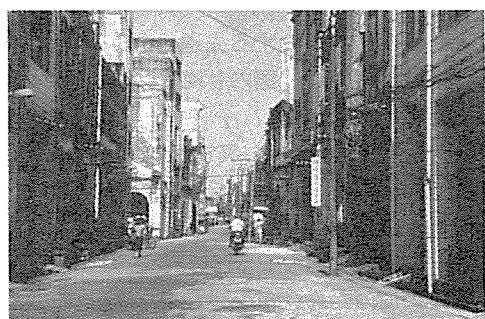
き前例がない。したがって、「美化工程」計画は系統的な都市設計と研究であるとも言える。

「美化工程」計画策定の基本的な考え方としては、可持続発展理論・現代都市設計の理論と方法・都市形象の塑造とCIS理論・田園都市計画の理論・臨海観光都市の風貌と美的特徴の理論などを用いた研究にもとづいて、計画の意図を提出し、一定の地区を対象とした計画設計を行うものである。なお、計画の実施と管理のために、厳格な実施規定及び実施計画・実施措置を設けることにした。

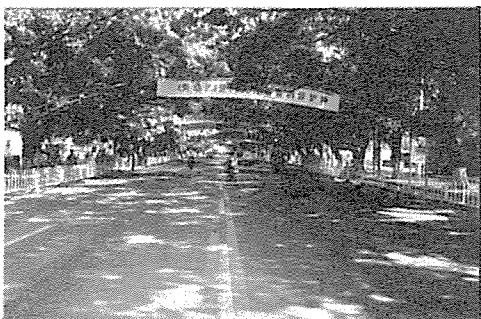
計画策定から管理・実施にいたる持続的過程は、都市の空間形態の規制・都市外部環境の総合的整備から局部的地区の重点的改造まで、全体の目標をいくつかの局面に分解しつつも最終的には全部を実現させるのである。

「美化工程」の実施範囲は都市の中心部である。重点的に実施されるのは、都市の門戸・玄関ともいえる地帯・海浜地帯・特別街区（歴史的街なみを含む）・主要街路・主要結節点地帯などである。

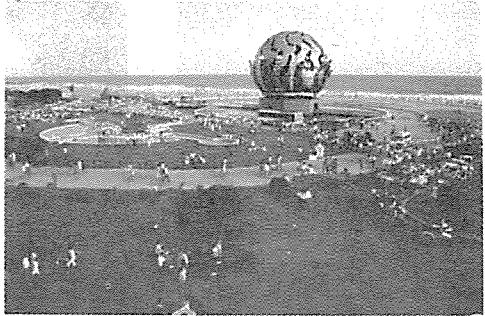
「美化工程」の現段階の目標は3年以内に実現させる。第一年（1997年）は、全面的緑化・重点的整備。都市の緑色空間体系計画により、都市の「三線一帯」で全面的な緑化を行い、同時に都市の門戸・結節点など重点地区の整備・改造を行う。二年目（1998年）は、全面的整備・重点的美化。都市海岸地帯で工場の移転・環島路の開通などをもって整備し、引き続き結節点地区を重点的に美化する他、都市内街区の全面的整備を実施する。第三年（1999年）には、全面的美化・総合的向上。都市の主要地区・



中山路



街路緑化



海難公園と彫塑「潮」



銀湾花園入口広場

重要な景観スポットを全面的な環境の美化を行い、景観の趣きを増し、環境の内容を充実させ、そのランクと品位を向上させる。

3. 「美化工程」の実施方法と感想

(1) 「美化工程」は北海市の社会経済発展の新たな切り口である。

国家の経済調整政策の実施によって、北海市も都市の発展戦略と建設重点の移転に直面を余儀なくされた。したがって、新たな切り口を見つけなければならない。美化工程によって北海市の投資環境を改善し、都市のソフト・ハード両面にわたる環境を重視することによって都市全体の素質を向上させ、都市の吸引力を増加させることはきわめて重要である。

(2) 「美化工程」計画の策定は、科学的原則と方法に従わなければならない。

①系統性を重視。計画の策定にさいしては、「理論基礎→分析研究→計画設計→実施措置」という系統性・全体を重視し、系統的に秩序ある全体を形成していく。

②可操作性を強調。「美化工程」の目的と要求によって、計画管理と実施のために完全な系統的な実施細則（詳細な規定）を制定する。

③公衆の参加を実現。策定過程において広く各方面の意見を収集し、各部門、各業界 及び社会各界の名士の参与により計画の検討し、多階層の公衆の参加を十分に実現する。これら意見と指導層、専門家の意見を結合させ方針とする。

④計画のダイナミック性を強調。計画は明確に近期年間の実施計画をたてると同時に、計画のダイナミック性を配慮し、具体的に「美化工程」の長期的戦略目標とマスター プランも考慮する。

⑤先進性を追求。都市美化にかんする先進的な理念と計画手法を運用し、国内と海外の優れた経験を吸収する。

(3) 計画策定と実施対策の相互結合、実施管理を重視。

「美化工程」計画の策定過程で、われわれは計画の実施問題に特に注意を払うよう、意識してきた。策定の段階から、市の建設

局・観光局などの関係部門の参加によって関連内容の協調が行われ、将来、計画が承認されてからの有効的な実施を確保でき、一紙の空文にならないことをねらっている。

●実施の順序においての五段階及び各段階の内容と要求：

第一段階

系統研究……「美化工程」計画の総案を制定する

第二段階

専題研究……海岸線計画・緑化系統の計画・街区整備の計画研究・道路整備の詳細な計画などテーマ別計画を策定する

第三段階

詳細設計……都市の重点的改造の局部地区・結節点地区・街路など詳細な設計と施工図設計を行う。

第四段階

実施準備……建設の資金を調達して施工計画案を作成し、各関係と協調する。

第五段階

実施……建設を全面的に始動し実施の効果を見て、隨時に計画設計を調整する。

●実施段階における七つの局面

第一局面……系統的に都市緑化を行う。

第二局面……環境施設や彫刻を配置する。

第三局面……街路を疎通し改造する。

第四局面……違法建築や都市景観を損う施設を撤去する。

第五局面……重点地区に都市ランドマークを設置し、環境を美化する。

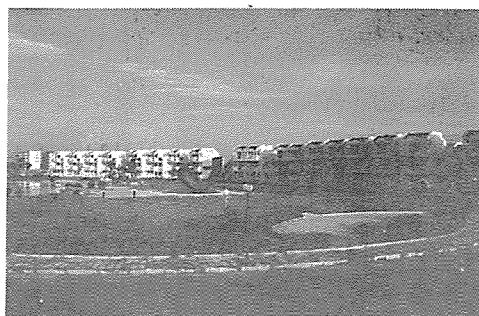
第六局面……都市照明系統を完備する。

第七局面……歩道の舗装や建築装飾を行う。

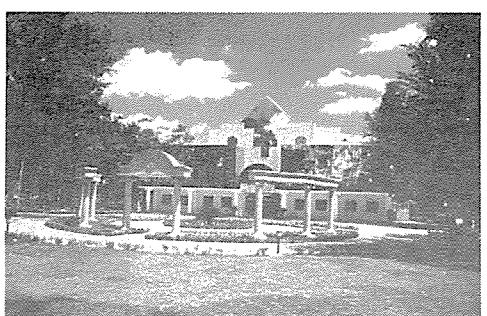
現在では、北海市の「美化工程」が着々と予定の目標に向って進められている。すでに実施された一部「美化工程」の項目は段階的な成果を得た。われわれは、「美化工程」の有効な実施により、北海の都市形象はより一層美しくなり、北海の投資環境もさらに改善され、北海の社会経済が飛躍的に発展することを信じている。



術造緑化



銀湾花園



東郊公園の中心花園

整体・開放・多様 -北海市北部湾広場に関する設計構想-

疏 良仁・蘇 龍
北海市城市規劃設計院

[概要]

本文は、北海市の北部湾広場の設計構想と感想を3つの側面から概括した。

即ち空間形態においては整体の中心化という特徴を強調し、環境品質においては開放的街路化という特徴を示し、人文活動においては多様化の地方的特徴を反映した。

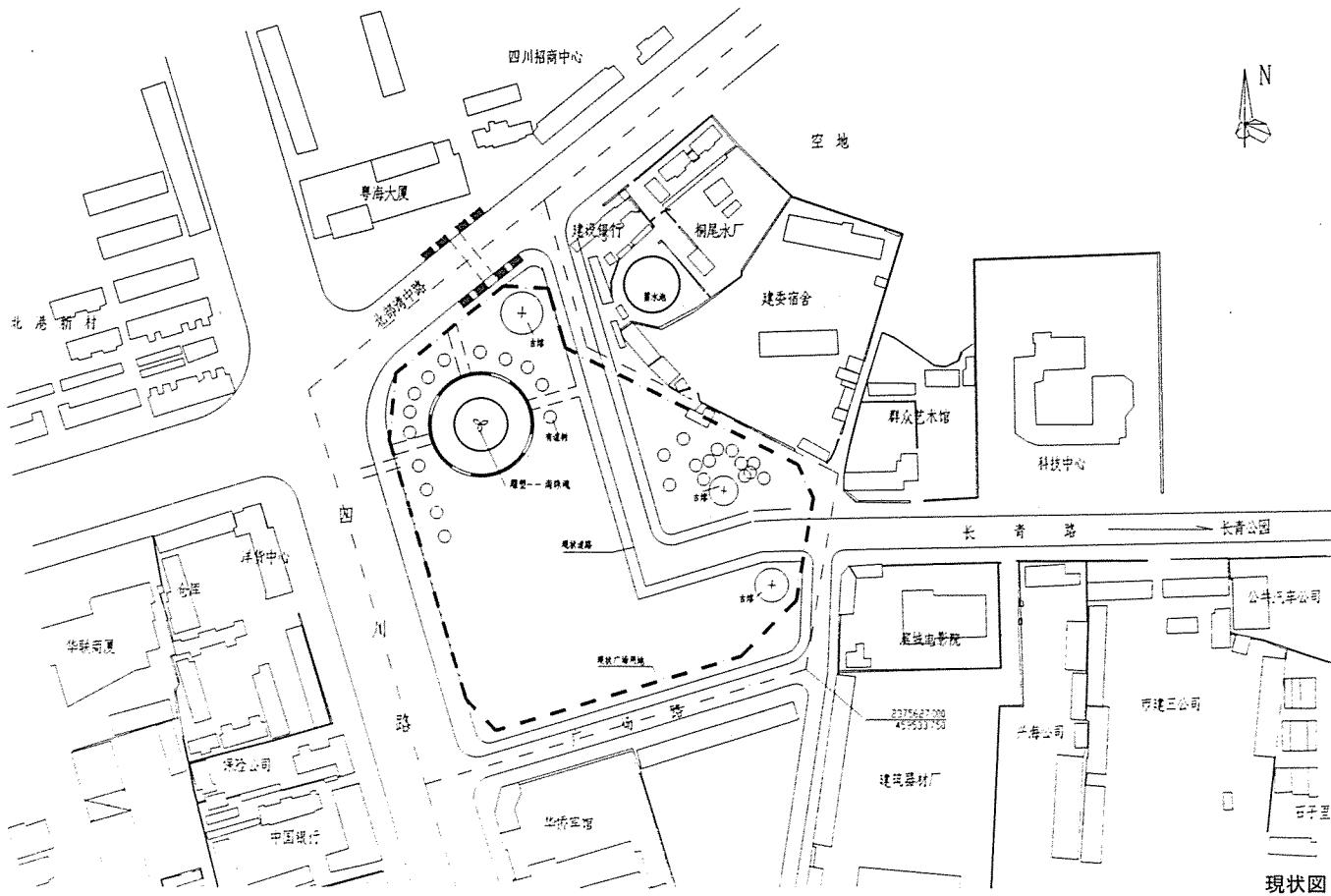
キーワード：広場、整体、開放、多様

「あなたの都市を見せてくだされば、私は即時にあなたの都市の住民がどんな文化的追求をしているのかが言い当てられる」。イーロ・サーリネンの言う通り、都市は開けている書物であり、その中からは当該都市の目標や理想を見出すことができる。特に広場は都市を認識する上で重要な場所である。中世もしくはそれ以前から都市の広場は、公共的な活動や社会的コミュニケーション、集会の場所などにあてられていた。特定の活動機能と人文的特徴を有する広場は都市の核となって、その都市独特な個性と品質を与えてくれるのである。都市広場は都市の客室（座敷）のようなもので、その客室の形象は主人の文化的品位を直接に反映するものである。本文は北部湾広場の改造例、広場の空間形態・環境品質・人文活動など3つの側面から広場の設計構想を述べるが、広場の改造を通じてこの都市の住民の文化的追求がどのようなものか見出すことができるだろう。

1. 空間形態＝整体

空間の統一性と形態の整体（一体）感は、都市広場の基本的概念と特徴である。異なる形態・規模、活動内容と文化内包の広場はその特徴的表現も異なる。ベニスの聖マルコ広場やワシントンの中央広場などは、それぞれの形態特徴と文化的内包の存するところがまちまちであるが、広場の空間形態の表現においては、その整体性は同様である。北部湾広場は総合的な都市の中心広場であり、その空間形態の統一性と整体性は、中心を強調する整体的構図、統一的で調和した空間序列、自然的と人工的な要素を融合した形態などが挙げられる。

空間形態の形成は敷地の制約を受けている。環境の想像では、できるだけ敷地の利点と特徴を生かして、人工的な要素を自然的な要素の中へと解けこんでいくことが望ましい。北部湾広場は、北海市の既成市街地の中心域に位置し周囲はこの都市の繁華街である。現状の広場はL字型になっており、面積はわずか2万平米余り、ひじょうに狭く感じられる。広場には、北海地域の象徴である「南珠魂」という彫刻の噴泉とその周囲に植えられている14本の古榕樹（14の沿岸開放都市を代表する友誼樹）以外は、ほとんど芝生に覆われている。しかし、現在では芝生はかなり荒れており、活動のスペースが不足し、人文活動は少なく、海辺の特色や文化品位などが乏しいことから、北



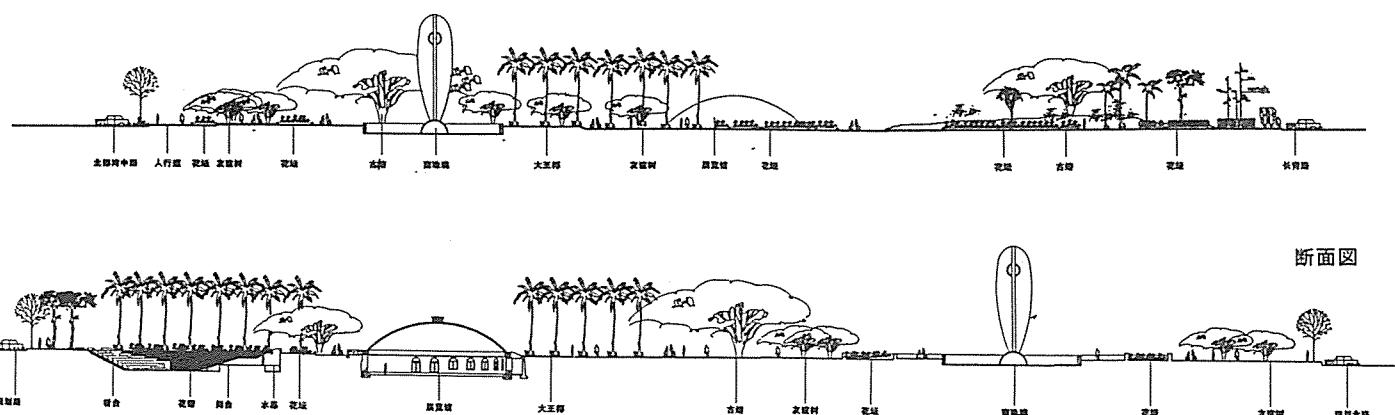
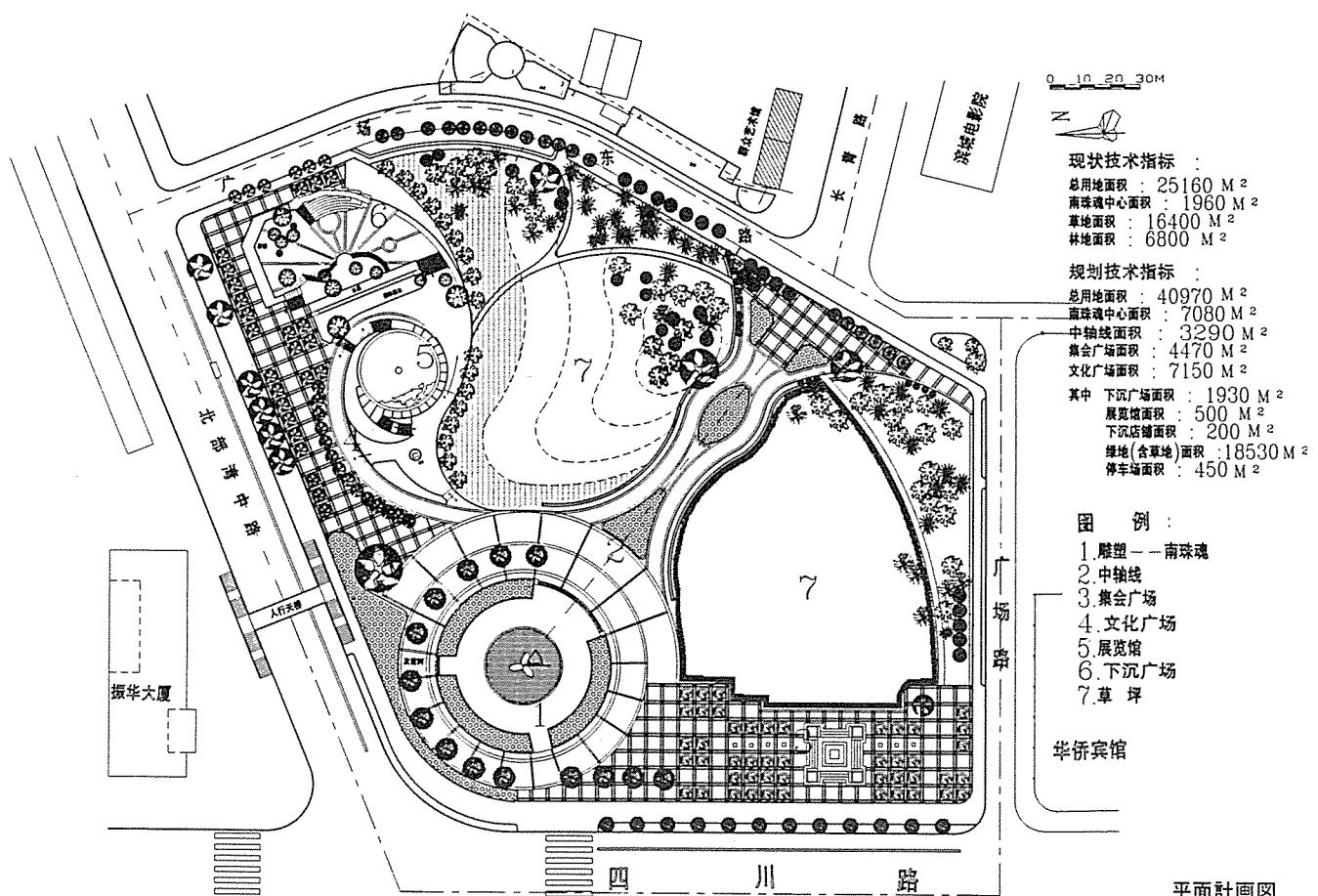
部湾広場の整備・改造が必然となった。

広場の形態設計は、その特徴的な扇状地形と「南珠魂」彫刻噴泉を生かし、広場の形状や整体性の構想理念と結合して、「一つの中心、三つの翼」という整体的な空間構図を形成した。すなわち「南珠魂」センターゾーン・集会広場ゾーン・中軸線ゾーン・文化広場ゾーン・大芝生ゾーンといった五大機能区からなる完全なる整体的な広場機能体系である。（図2）。

「南珠魂」は、ちょうどその扇状地形の重心あたりに位置しており、その雄大なボリュームと造形的な簡潔さとあいまって、南珠之郷である北海の文化的特徴をよく表し

ている。今日、その位置、ボリューム、そして歴史的地位などから、広場のランドマーク的な存在となっている。

広場の平面形態は、簡潔さ・自然的・整体性を追求し、大曲線や大折線と変化の多い線形と組み合わされ平直と柔軟、均衡と洒落を調和した形態的特徴を有している。各機能区では、異なる線形の組み合わせによって統一的な形態をなし、特に大芝生の自然的、流れの緩やかな曲線は、個々の活動軸をバランスよく繋がる一方、自然的活動の可能な経路を増し、スケールの大きい広場における強烈な整体性とその視覚的効果を実現した。



2. 環境品質=開放

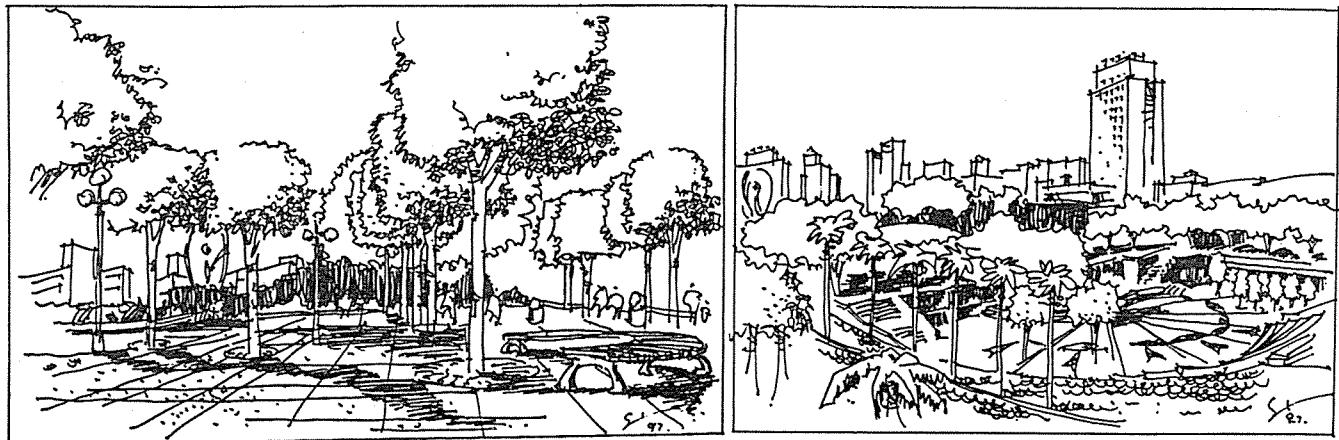
都市広場は、開放的な公共空間と活動の場所として、数多くの開放的街路空間の交差によるものである。スケールの大きい自然の背景や、広々とした空間と精緻なまちの小道具、内容が豊富な活動場所を結合することで、今日の都市広場の環境品質設計の概念がその上に成り立っているのである。

特定の地理気候条件は、特定の都市環境形象と品質を作り上げたとも言えよう。北海は亜熱帯に位置し機構は温暖湿潤で、四季が春の如く、人々は昼夜を問わず年中戸外での活動ができる。このような気候的特徴から、広場の植物環境の特色が決められ、大王椰子、ピンローネー樹などの植物をメインに一面の花を配して亜熱帯の風光をよく表

している。それに開放的な空間の中には、観葉植物、まちの小道具と彫刻と一緒にになっている。

現有の特色ある植物と景色を利用して、広場の中央に二面大きな芝生を配し補助的に樹木を植えて開放的緑地を形成している。緑地には小路が大きな弧を描いて各機能区を連なって、小路の片側は樹林地で、南方の海辺の特色である椰子などの鑑賞樹が林となっており、緑色屏風と化して広場空間の領域感が強調された。

都市広場の景観は小道具や彫刻が欠かせない。ごみ箱・ベンチ・広告・新聞欄・TELボックス・照明器具などは広場全体の環境と調和され、周りの景色とも融合し生き生きとした交響曲となっている。



北部湾広場－全景

3. 人文活動=多様

認同感と親近感を有する都市広場の建立は、その内在的な文化の特質、即ち場所精神を与えなければならない。場所精神は多様な人文活動や地方的な文化特徴に由来する。都市広場は客厅であって、様々な人々の異なる活動の需要が満たされると同時に歴史的建築物や場所の特徴を保存して、地方的な文化活動や民族風情を注入し、都市広場の外在的な環境美と内在的な文化品質を融合させ、その上で文化的意義を有する公共活動場所を創造することができるのである。

北部湾広場の5大機能区は異なる人文活動の内容に対応していると同時に、人々の活動もまた広場の豊富な「人文」景観を形成している。「南珠魂」センターゾーンは広場の核心的な機能ゾーンで、人々がこの都市の風光を鑑賞する拠点であり、広場の中心的な景観でもある。

樹陰広場やサンクン形式の文化広場と展覧館は文化広場ゾーンの三大内容である。独特の歴史文化と場所特徴を生み出した。

サンクン形式の広場は現在の地形を利用した開放的な公共的文化娯楽と休憩空間である。広場には騎樓（ポルティコ）式の商店・茶室・身障者用スロープ・大きな斜面と垂直の緑化によって、都市中心部の賑やかさを忘れさせる閑静を保った優雅な室外環境となっている。そのスケールは人に優しく、景観は豊富である独特なサンクン広場は、北部湾広場の人々の遊覧活動のホットポイントとなっている。また、元の水道水工場の水槽を利用して都市の公共的展覧館に改造したことで、歴史的建築物が保存できた一方、広場の文化的内容も充実された。この公共的展覧館は北海の文化と歴史を展示している。

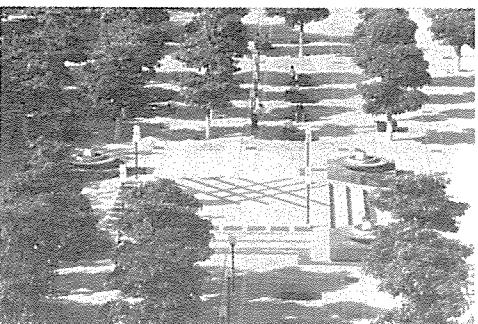
広場の夜景への配慮は夜の人文活動を活発化できる。各景区には、必要に応じて各種の照明が配置された。特に「南珠魂」彫刻は雄渾壮大に見え、星空の下の緑色の海が閑静で広々と感じさせられる。毎晩、人々が各方向からこの地に集り、この新しい広場の夜景を楽しむ。美しい都市の客厅はより一層魅惑的になるのである。



北部湾広場－全景



北部湾広場－全景



中国・北海市

北海市は中国の西南部、広西チワン族自治区の沿海部にある。ベトナム国境までわずか約120kmの位置にあり、かつては海のシルクロードの海港として栄え、またインドシナ諸国を支配していたフランスによる経済等の影響を受け栄えたことをうかがわせる街なみが残るなど歴史的な都市である。

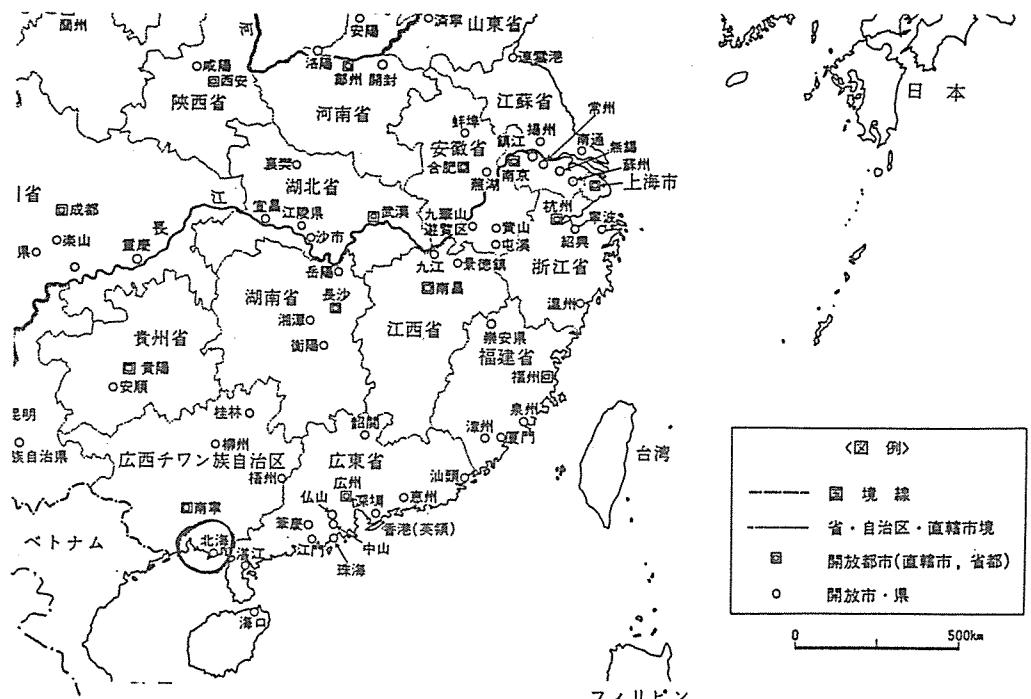
本文にもあるように、近年、開放経済政策下で都市開発（投資）が急激に進んだが、実需は必ずしも伴わず、投機的な開発ブームといえた。政府の政策変更で金融引締めに会い、「バブル崩壊」は顕著で、TV等で全国にも知れわたった。市政府の上層部は交代をし、計画の見直し等を含む建直しを行っているが、そこに招かれたのが雷都市計画局長であった。雷局長は若手スタッフを各都市、大学などからスカウトし、強力な計画チームを編成した。現在は大風呂敷気味のマスタープランを現実に合わせる変更作業を行うほか、海浜地域でのより現実的なリゾート開発の準備や、ここに述べられている都市部の整備などを行っている。雷局長指導による北海市の都市計画は中国全土の中でも論理性・実行性等の水準は高く、注目されているそうで、ことに都市情報処理システムの整備に関しては、都市規模も幸いして中国で一、二の整備水準にあるときく。なお、雷局長は中国都市計画学会の都市設計委員会の委員長でもあり、重庆大学の客員教授でもある。

地図をみてもらえばよく分るが、北海市の南方には海南島（省）がある。実は、ここ海南省の海口市とは筆者（土田）は前から縁があるのだが、昨年、市の河口部に新たにかかる斜張橋の修景設計について相談

を受け、是非来て欲しいとのこと。内容的に一人でできるものではなく、近田・吉田・河野の諸氏に声をかけ手伝ってもらうことにしたのだが、折角海南島にまでいくのならば、帰りに少し寄り道をしようというので立ち寄った一つが北海市であった。

（海口市でのデザイン・コラボレーションについては機会をあたらめてご報告することもあるうかと思う。）海口市と北海市は海をはさんで対のような都市で、人事交流も盛んである。実は雷局長もかつて海口市で都市計画の仕事をしておられたとかで、海口市側にいろいろ手筈を整えてもらった。折角日本から都市環境デザインの専門家が来るというので、北海市の都市計画局で講演をするハメになったが、日程の都合で日曜日の夜9時からというのに3、40名の参加を得た。土田、近田、吉田3名の、スライドを使っての講演で、現在北京大学の先生をしている呂（本会会員）の通訳という豪華版である。それに先立つ食事の時、実はアジアの都市デザイン事情を日本に紹介したいという話を雷局長にしたところ、是非北海市として原稿を寄せたいということで頼ったり、叶ったりとなった次第である。

北海市からの連絡によると合計7本の論文を用意されたそうだが、日本文翻訳の段どりがつかず、とりあえずここに掲載する2つの論文となった由。中国に関しては他にも原稿依頼をしており、その紹介の時に併せて掲載をしたいと考えている。なお、本稿は、北海市が自ら広島大学に留学している蘆永春さんに依頼して翻訳された日本文を土田が表現・言回しなど若干修正したものである。（土田 旭）



■研修・研究委員会報告

鳴海 邦碩

NARUMI KUNIHIRO

関西ブロック・セミナー
委員会委員長

大阪大学

都市環境デザインセミナー 97'

開催日 1997年11月22日

場 所 OCATホール

主 催 JUDI・研修研究委員会／関西ブロ
ック・セミナー委員会

<プログラム>

☆趣旨説明・司会－鳴海邦碩（大阪大学）

☆建築から都市環境デザインへ－江川直樹
(現代計画研究所)☆ランドスケープデザインの世界－－大塚
守康（ヘッズ）☆土木デザインと都市環境－－榎原和彦
(大阪産業大学)☆諸分野の連携とまちづくり－小林郁雄
(コープラン)

<運営協力>

土橋正彦、森重和久、清水泰博、大矢京
子、横山あおい

<まとめ>

関西ではじめての学生・若手向けのセミ
ナーを下記の要領で開催した。参加者は63
名であった。当初100名近い参加を想定した
が、少なかった原因を分析する必要がある。
参加者の評価は概ね高く、将来の開催を希
望する意見が多い。日曜日開催を望む声も
あった。年1回程度の開催を続けることが
必要と考えられる。

当日アンケートを配付し、感想や希望に
ついて自由に記述してもらった。その内容
がセミナーのあり方を考える上で参考にな
るので、以下に掲載する。

| <参加者の構成> | | 男 | 女 |
|---------------|-----|----|----|
| 学生 | 45 | 29 | 16 |
| コンサルタント・設計事務所 | 7 | 6 | 1 |
| 建設会社 | 1 | 0 | 1 |
| 住都公団 | 2 | 2 | 0 |
| 出版社 | 1 | 0 | 1 |
| 公務員 | 3 | 2 | 1 |
| JUDI会員 | 4 | 2 | 2 |
| 計 | 63名 | 41 | 22 |

<参加者年齢構成(誕生年)>

| | 女 | 男 |
|--------|----|----|
| 1978 | 1 | 0 |
| 1977 | 5 | 0 |
| 1976男 | 2 | 7 |
| 1975 | 2 | 4 |
| 1974 | 1 | 2 |
| 1973 | 0 | 2 |
| 1972 | 0 | 1 |
| 1971以前 | 2 | 4 |
| | 13 | 20 |
| 不明 | 9 | 21 |
| 計 | 22 | 41 |

<将来への期待>

- ① 案内の送付----- 10
- ② 学生向け催しをもっと--- 27
- ③ 学生・若手の入会----- 7
- ④ 若手・社会人も参加しやすく--- 2

計 46

<アンケート自由記述>

1978生まれ

学生女 始めて学外のセミナーに参加し
たが思っていた以上に勉強になった。でき
れば今度はスライドではなく模型などを見
せてもらえたうれしいです。

1977

学生女 都市環境デザインでは、ハード
面だけではなく、ソフトな面への考察や社
会的条件、住民参加等、各々の分野の枠を
越えた研究がなされているという点に興味
を覚えた。

学生女 デザインの実例がたくさん見れ
て良かった。

学生女 環境について勉強する上で、今
日の話は参考になりました。

学生女 ただ見た目が美しいだけでなく、
人間が気持ちよくすごせる空間をつくり
だすことが環境なのだと感じた。

学生女 いいまちができたらすごく気持
ちがいいし、その上自分が関わっていたと
したらもっとうれしいと思って、あこがれます。

1976

学生男 二つのスライドを同時に見せる
ことで、両者の比較や二つの視点からの風
景が見られ非常に分かりやすかった。スラ
イドがないと話が理解し難い。

学生男 都市は各分野の技術の集大成で
あって、皆が都市に対して何等かの意識を
持って初めて美しい街並みというものが生
まれるということを学ぶことができた。都
市に関わる人は相互のコミュニケーション
が必要だと思った。

学生男 都市としての総合的デザインと
いうものの基盤づくりの必要性を知った。
学生の場合、土曜は授業が入る場合ある
ので、もう少し遅くか、日曜などに開催す
ればもっと多くの学生が参加できると思う。
司会者、講師、ありがとうございました。

学生男 全体的にかなり細かい部分まで
やられていて、当然のことなのだろうが徹
底してやっているんだな、ということを実
感した。赤字財政の中で、住民主体の公園
づくりなどを目指していくかなければならない
と思う。

学生男 多数の写真を見ていろいろと参
考になりました。

学生男 時間が少なかったのが残念。本を読むより絶対良い。奥深いです。

学生男 具体例が細か過ぎて全体の流れを把握し難かった。スライドによる各地の風景は見た目にも面白く説明をもっと聞きたかった。

学生女 大学の授業よりも興味をそそるというか、面白かった。コーブランでやっている事を具体的に知りたかった。神戸出身なもので。

学生女 いくつもの新たな発見があり、大変勉強になった。住民が参加する事により自分たちの街であるという誇り的な意識をもたせることができた。江川講演から素材を開発するということは発見であり驚きであった。大塚講演の川を泥田にして自然の力で復旧させるというのはすごく衝撃的でした。

1975

学生男 講師の方一人一人の時間が短かったのが残念。デザイン論、都市の中での造形的な話もし聞きたい。無料はうれしい。

学生男 大学では聞けない広い分野の話、より実際的な話が聞けて非常に有益であった。環境デザインというカテゴライズしにくく、また新しいものだということで、将来のことを考えるとやりがいと同時に不安もあります。今回のようなセミナーが多く開かれると自分にとって非常に参考になり、今後につながると考えます。

学生男 「共有」できるテーマをもつことがキーポイントではないかと考えています。形ではなく人間が感じる空間をデザインしたいと改めて思いました。

学生男 江川講演にあった空間構成における「影」の重要性というものを気付くことができたのが最大の収穫であったように思う。もっと学生が参加できるような機会を増やして欲しい。大学での講演など。

学生女 今日の講師の方々は、それぞれ専門の分野をもっているが、「環境デザイン」という外枠の中で自由な位置にいるということがわかった。「環境デザイン」は総合的なものであり、そうでないと対応できないということがわかった。

学生女 まちづくりというものが住民参加でこのように行なわれているという事例を聞いて、とても興味深かった。

1974

学生男 場所性、地域性、時間軸とさまざまなものが環境にそなわっており、それを生かして自然な力を加えていくのが私たちの役割となることを認識した。

学生男 都市環境デザインということで画一的な視点にとらわれず建築・造園・土

木・都市開発など個々に相互に連帶することによって考えられる分野は大変興味深いセミナーであった。卒業研究をしているが、作品性が先走り、大塚講演から非作品性としての環境・自然をグローバルにとらえる方法の重要性を改めて認識できた。

学生女 建物自体に時間経過による変化を反映させるという点が面白かった。

1973

学生男 講師の多岐にわたる話は面白く魅力的なもので、これからも数多くこういった催しに参加していきたい。

学生男 非常に分かりやすく、また、都市環境デザインのもつている問題等がよく伝わってきた。

1972

公務員男 参加対象から少しオリンテーション的ではあったが、行政にいる自分にも知らなかつた部分が多くあり、視野が広がった。榎原講演から、縦割り行政の横つなぎ役が景観セクションの役割であることを認識できた。

1971以前

1971 公務員男 関西で第一線で活躍している方々の話を聞いて「やはりいいものだな」と思う反面、よきデザイナーよきプランナーの存在・仕事を活かしきれない、あるいは台無しにしてしまう役所の土壤を当事者として改めて考えずにはいられませんでした。

1971 社会人男 各分野のJUDI会員による共同で行なわれた仕事等の報告会を行なって欲しい。

1970 社会人男 江川講演から、これからは様々なまちを見、そして感じることから地域性を考慮したまちづくりへフィードバックさせるよう感覚をとぎすましたいと思います。小林講演から、公だけでも民だけでもできない分野のまちづくりでは、地域住民による活動やNPOなどに対する支援、理解、関心が不可欠なのではないかと思った。

1969 学生女 一つのテーマでじっくり聞いたかった。江川講演から都市は公共的空间の中に私生活の空間を含むことによって面白く奥行き深くなるということを感じた。

1963 留学生女 ビジュアルで面白かった。時々、OHPの文字が小さくて読みながら。

1962 社会人男 成功事例も必要ですが失敗事例も必要ではないでしょうか。

不明 社会人男 具体的なカタチをもつたデザイン（例：江川講演のスライド）を中心に社会性を帯びた提示ができれば、も

■国際委員会報告

谷 明彦
TANI AKIHIKO
国際委員会担当代表幹事
株式会社谷計画研究室

う少し厚みのある催しになるのではないで
しょうか?イメージ不足。市民の幸福なラ
イフスタイルを提示することが大事と考え

るが、具体的に何が、どういうスタイルが
誰の幸福になるかまで考えなければならな
い時期ではないでしょうか。

去る1月24日(土)に、新宿のOZONEセミ
ナールームにおいて「世界のまちづくりを
語るー行政とデザイナーの協働ー」と題し
て第六回のJUDI国際セミナーが開催された。
参加者は20名とこじんまりとしたセミナー
となったが、これまでにもまして活発な意
見交換が行われた。

国際セミナーは、1995年2月11日に第一
回が行われて以来、毎年二回のペースで続
けられており、今回で六回を数える。この
うち今回を含む半数は「外国人プロフェッ
ショナル・シリーズ」として日本在住の都
市、建築、造園などの分野に関係があるプ
ロフェッショナルのかたがたに、日本の都
市環境デザインについて語ってもらうこと
を目的としている。

南條洋雄委員の司会で始まった今回の国
際セミナーは、長島孝一委員長がコーディ
ネーターをつとめ、四名のスピーカーの発
表とパネルディスカッションが行われた。
出席の各スピーカーの発表は以下のとおり
であった。

アルベルト・アビュト氏はフランス出身
の建築家で現在はアトランティス・アソシ
エイツ代表を務める。氏は日本の都市景観
が建築家や都市計画家ではなくエンジニア
によってつくられているため、CHAOSになっ
ていると感じている。この状況を改善する
にはコーディネータが重要であると説いて
いる。また、日本特有の歴史や文化を大
切にし、たとえば広場でも西洋風の広場が本
当に必要かと疑問を投げかけている。

李乙圭(イ・ウルギュ)氏は、韓国出身
で現在鹿島建設の設計部に勤務している。
氏は、日本の公共スペースや公共施設の使

い方がお仕着せになっていると主張。もつ
と自由な使われ方ができる場の設定が必要
であると提言している。また、日本のアーバ
ンデザインは景観整備に片寄っており、
生活の場としての捕え方が不足していると
も述べている。

国際委員でもある三谷康彦氏は現在日建
設計に勤務するランドスケープ・アーキテ
クトであるが、ピーター・ウォーカー事務
所での7年間を含む豊富な米国での経験を
もとに日米のランドスケープ・アーキテク
チュアの違いなどを発表した。特に日本で
のランドスケープ・アーキテクチュアへの
理解の欠如、ランドスケープにおける投資
のバランスについて意見を述べた。

もう一人出席が予定されていた米国出身
のトフルマイヤー氏が急病で出席できなく
なったため谷委員が代理で氏の小論文を披
露した。リチャード・エリスで不動産アナ
リストを勤めるトフルマイヤー氏の意見では、
日本の公共政策の失敗が東京でのオフ
ices地域の無秩序な拡張を招き、立地条件
の悪いオフィスを大量に生みだし、同時に
都心の住宅地域の疲弊を招いた。この解決
には部分的容積緩和とゾーニング規制強化
を組み合わせさらに不動産市場の流動化策
が必要であると主張している。バブル以降
の土地政策が、用途地域の問題を触れずまた
全般的な容積緩和策のみで不動産市場を
活性化させようとしていることに警鐘を鳴
らしている。

パネルディスカッションでは、各々のス
ピーカーの意見にたいして、フロアも巻き込
んだ議論が展開された。その中で際立った
のが、日本人は意見を持っていても発言し
ないし、行動しないというものであった。
結論として、日本の都市環境デザインの状
況を改善するためには、専門家が積極的
に発言していく必要があり、JUDIにもそ
ういった機能がもっとも求められてくるとい
うことであった。

今回の国際セミナーは、予定したパネリ
ストのうち二人もキャンセルになるなど、
準備段階での苦労が多く、担当された南條
委員と南條設計室の鈴木さんにはたいへん
ご苦労をかけた。紙上をお借りして謝意を
表したい。また、今後もさらに良い企画で
継続していくので、より多くの会員のかた
がたの参加を期待したい。



第6回国際セミナーの会場風景

■代表幹事会報告

伊藤 洋
ITOH YO
代表幹事

(有)CAU・プランニング

会員入会基準と都市環境デザイン会議の意義

2、3年継続して論議されてきた「若手専門家の入会問題」は、昨年の定例総会で取り上げられ、来期の総会で規約に基づいて「入会基準」として整備することとなった。

時間をかけて検討してきた経緯は、組織の専門性の高さを求める立場と、若い活力に活動の活性化を求める立場との間で、組織の基本的な位置づけに差があったためである。

基準等組織のあり方にかかわる内規は、会員の十分な合意に基づいて決定するのが望ましいが、今回は今までの検討をふまえるものの、将来に課題を留保する段階的措置の第一段階の決定である。そこで代表幹事会での議論も含めながら、各ブロックとやり取りした意見交換のニュアンスを報告することとした。ただしこの報告の内容は、今夏の総会での決定を予定している問題であり、これをご覧になる会員と総会までに意見交換することも予定に入れた報告である。代表幹事会の公式報告とは別の、私見を含めた概況報告としたいのでご承知いただきたい。

バブルがはじけて約10年、経済危機に直面し、戦後のあるいは明治以後の官僚制が限界に来たとも言われ、21世紀を直前にしながら今後の見通しがつかない状況である。公共投資も毎年抑制され、自治体レベルでも都市景観等の都市環境デザイン関連予算が大きく削減されている。

このような背景は、都市環境デザイン会議が社会的に発言し、存在意義を発現する機会であり、その要請は強まると言えそうです。しかし現状では、各ブロックにおいて事業への会員の参加率の低さや、会員が少ないとによる問題が指摘されているとともに、会員の平均年齢の上昇*も指摘されており、活動の活性化と、若手専門家の参加が課題といえます。

*設立当初約200名の会員が現在約550名と年々えてきたが、年の経過と、新規入会者の年齢層の関係とから、会員の年齢構成は高くなっている。設立直後の調査で、40代、30代、50代の順だった年齢構成が、最近では、40、50、30代の順であり、30代が減り50代が増えてきている。

今まで若手専門家の入会が期待されていながら、専門分野での実務経験年数を重視してきたのは、本会を早く、確実に社会的

存在とするために、一定以上の専門家の参加を図ったことにあると言えます。

設立当初と比べ、2倍以上に増えた会員数とその顔ぶれから、なお本会に入会を期待したい専門家がいるものの、大方の態勢はできたとする意見もあり、なお引き続き実務経験を重視する意見もあります。

また、若手専門家や、都市環境デザインに関心を抱く人々に入会を期待するには、会費のハードルが高すぎはしないかという意見もあったが、基準としては簡明な仕組みとして基準試案を作つてみた。

昨年11月、代表幹事及び各委員長、ブロック幹事にその「会員入会基準(案)」*について意見を求めたところ、代表幹事等は「概ね案どおりで良い」とする中で、実務経験を重視する意見がやや多いのに対し、ブロック幹事には、若手は入会しない人も実質的に活動しているが、若手が入会できる可能性を大切にすること、将来は基準をなくすことを指摘し、それを求める意見が多かった。

*「会員入会基準(案)」

- 原則として実務経験5年以上であること。
- 実務経験5年未満であって、推薦者が強く推す時には、推薦者の意見を聞いて、代表幹事が決定する。

今後の社会的枠組みの変化は従来の変化の程度を越えて行われ、住民・市民の参加、官民のパートナーシップ等の動きが加速され、専門家だけが寄託を受けて公共的な計画・事業を実施する傾向は少なくなると予想される。

都市環境デザインが、都市における必須の環境要素であることを理論的にも、実質的にも確認し、普及することが本会の目的であるとすると、若手専門家だけでなく、近い将来、街づくりの現場で活躍する人々をメンバーに加え、一緒に活動してもらうことも必要になるだろう。

そのため、将来、基準の撤廃又は運用の緩和を前提に、まず若手が参加できる条件を第一ステップとして設定する「基準」にしたいと考えます。

*なお次回の総会までの間、各ブロックとはなお1、2回意見交換を重ねる予定です。ご意見をお寄せ下さい。

選挙管理委員会

公告

都市環境デザイン会議会員各位

都市環境デザイン会議

選挙管理委員会

委員長 菅 孝能

告示日 1998年2月10日

■都市環境デザイン会議代表幹事ならびに監査役の選挙について

この度、役員の任期満了に伴い、代表幹事、監査役を選挙により選任することになりました。選挙管理委員会を設け、選挙を行うこととなりました（役員選挙規定第12条による）。規定第7条2項に基づき下記のとおり選挙の告示を致します。

以下の点につきましてご留意の上、多数の立候補を期待いたします。

記

1. 今回選出される人数は以下の通りである。

代表幹事 10名

監査役 2名

2. 役員は、あらかじめ会員の選挙によって選出された候補者が、7月（予定）の総会において承認されることにより選任される。

3. 選挙権と被選挙権

第6条 選挙権を有する会員は、選挙告示の日から一ヶ月前（1998年1月10日）までに会員としての資格を有したものとする。

2 被選挙権を有する会員は、選挙告示の日から一ヶ月前（1998年1月10日）までに会員としての資格を有したものとする。

4. 役員の任期は2年とする。

5. 候補者の形式について

代表幹事、監査役の選挙には2通りの形式がある。

(1)自立による立候補

(2)選挙権を有する正会員2名の推薦を受けた推薦候補

6. 推薦人は候補者を代表幹事においては2名、監査役については1名までを推薦できる。

7. 候補者の届出は次の様式にしたがった届出書を用いて行う（大きさはB5）。用紙は事務局に置いてある。

8. 推荐候補の届出には、候補者本人の自署、捺印が必要になるので注意のこと。

9. 届出は、都市環境デザイン会議選挙管理委員会（〒113 東京都文京区本郷2-35-10 本郷瀬川ビル TEL 03-3812-6664 FAX 03-3812-6828）宛とし、提出期限は1998年2月27日（金）午後6時とする。

10. 投票は、役員選出規定第7条に規定されているとおり、別紙送付される投票用紙によって、無記名、通信制で行うものとする。なお、投票期間は投票用紙送付（3月20日頃）から3月30日（月）（当日消印有効）までの予定である。

■都市環境デザイン会議1998年度役員選挙スケジュール（予定）

2月10日（火） 選挙告示

2月27日（金） 立候補届出締切（午後6時）

3月20日頃 投票用紙送付

3月30日（月） 投票締切（当日消印有効）

7月頃 第8回通常総会

■候補届出書の様式

代表幹事立候補・推薦候補届出書

（様式1）

| | | | |
|---------------------|--------------------|------|-----------------|
| ○候補者は下記の各欄を明記して下さい。 | | | |
| 候補者 氏名 | 印 | 生年月日 | 19 年 月 日 満 歳 |
| 所属機関 | | | |
| 住 所 | (勤務先) □ (自 宅) □ | | |
| 所 信 | | | |

○推薦候補の場合、推薦者が下欄に記名捺印して下さい。

| | |
|--------------|---|
| 印 | 印 |
| 推薦理由 (1名) | |
| (執筆者氏名 :) | |

都市環境デザイン会議選挙管理委員会

ブロック例会レポート

■関東ブロック

中井川 正道
NAKAIGAWA MASAMICHI
関東ブロック幹事

(株)G K設計

2月例会のお知らせ（見学会&講演会）

「深川の街の記憶を探る」

－江戸から明治そして現代まで－

関東ブロックでは、例年40名～80名の参加者による見学会を盛大に行っています。今年は、江戸から近代の歴史が色濃く残る江東区は深川を見学します。そして清澄庭園内

の「涼亭」にて、深川の歴史に造詣の深い成城大学の吉原健一郎先生を講師にお迎えして講演会を催します。区の職員の方々にも色々とご案内いただける予定です。是非この機会に、東京は下町の歴史と人情にふれてはいかがでしょうか。お友達をお誘い合わせの上多数ご参加頂けることを願っております。なお参加ご希望の方は、下記企画担当の須永淑子宛に2月18日までにFAXにてお知らせ下さい。

■プログラム

- ・開催日 平成10年2月21日（土曜日）
- ・時間 13時30分～18時頃まで
- ・参加費￥1,000(資料代含む、入場料除く)
見学ルート（案内説明江東区職員）
13時30分深川神明宮に集合徒歩にて見学
高橋、小名木川
↓ [江戸に塩を運ぶために開削した川]
紀長伸銅所
↓ [明治34年のレンガ建築]
元同潤会清砂通アパート
↓ [大正15年～昭和4年にかけて建設]
清洲寮、靈巖寺
↓

■関西ブロック

土橋 正彦
TSUCHIHASHI MASAHIKO
関西ブロック幹事

(株)アーバンスタディ研究所

◆関西ブロック年末行事

12月20日（土）、関西ブロックの年末を締めくくる97年第10回セミナー、総会、忘年会を合わせて開催した。

○97年第10回セミナー

97年最終となったセミナーでは、これまで正面から扱かう機会が少なかったブロック活動の将来を展望するということで、

「関西ブロックの今後を考える」と題して報告と意見交換を行った。セミナー前半では、関西ブロックの主要な活動をとりあげ、活動の成果について報告があった。報告のテーマ及び発表者は以下の通りである。

①第6回都市環境デザインフォーラム・関西（フォーラム委員長：丸茂会員）、②シリーズセミナー（セミナー委員長：鳴海会員）、③公表活動（前田会員）④海外セミナー（井口・森重・大矢会員他）。後半の議論を含めた内容の詳細は、関西ブロック

深川江戸資料館

↓ [約150年前の町並みを再現]

旧東京市営店舗向住宅

[昭和3年震災復興事業]

16時30分清澄庭園に到着

↓ [潮入り式庭園]

17時～19時頃まで園内「涼亭」にて講演会

講演者 吉原健一郎氏（成城大学教授）予定

・懇親会一門前仲町にて割り勘

－その他、芭蕉記念館、相撲部屋、東京都現代美術館、ドジョウ屋、深川めし等見どころ食べどころがたくさんあります。朝から行こう！企画内容についての問い合わせ先および参加希望の連絡先

・TALO都市企画 須永淑子

TEL 03-3201-3901 FAX 03-3201-3890

－4月例会予告－【福祉シリーズ第3

弾！】

「視覚障害者誘導用ブロックの行方」！

日時決定：4月25日（土）13時より！
前回ブロックレターにて意見を募集したところ、たくさんの方々から様々な意見をいただきました。是非この機会により深くこの問題について理解したいと考えています。
当日は障害者や研究者と積極的に意見交換できるような企画を考えています。皆様奮ってご参加下さい。〔詳細は次回ブロックレターにて〕：本企画の内容や誘導用ブロックについて引き続きご意見を頂戴しています。ご意見のある方はアイエルビー株式会社 蕑田朋子までお願いします。 FAX 03-3815-6448

・インターネット・ホームページ <http://web.kyoto-inet.or.jp/org/gakugei/judi/index.htm>に近々掲載予定である。

○関西ブロック総会

恒例の年末総会であり、約半数の会員の参加を得て、①97年の活動総括、②97～98年度の会計中間報告、③98年のブロック活動方針の提案・討論、及び④98年新役員の選出等を行った。

⑤については、昨年初めてイタリア・マルケ州・メルカテルロで実施した海外セミナーの定例化、新たに都市環境デザイン写真展を開催すること、などが決まった。この2件の活動については、他ブロックからの参加をどう考えるか、テーマ、スケジュールなど、企画の具体的な中身を担当委員会で検討することとなっており、フレームが定まり次第、必要であれば本欄（ブロックレター）などを通じて広報することにな

る。また、懸案となっている都市環境デザインガイドブックの関西エリア編集作業のための担当委員会の継続も了承された。

④については、新ブロック幹事候補として長谷川弘直会員（都市環境計画研究所）、煩雑化しているブロック活動を総括するためのブロック運営委員長に山本茂会員（生活環境問題研究所）、フォーラム委員長に増田昇会員（大阪府立大学）、セミナー委員長に鳴海邦穂会員（大阪大学）等を選出し、新年のブロック活動を担っていただくこととなった。

○忘年会

総会後の1次会、2次会、3次会・・・と、久々に会う顔も交えて深夜までブロック会員の親睦を深めながら酒を酌み交わし、また高吟して、不況風吹く大阪北新地の活性化に幾ばくかでも寄与することができたと、ブロック会員一同自負（反省？）しきりであった。

1. 新会員の紹介

1997年11月1日～12月31日の入会者は下記の通りです。（入会順、敬称略）

12月31日現在の会員数は、524名です。

| 氏名 | 勤務先 |
|-------|----------------|
| 杉山 和雄 | 千葉大学工学部工業意匠学科 |
| 山崎 雄右 | 高知大学農学部生産環境工学科 |
| 今泉 恒一 | 鹿島建設（株）技術研究所 |
| 伊藤 光男 | 伊藤鉄工（株） |
| 井上 博夫 | コスモ設計室 |

事務局より

2. 住所変更等（敬称略）

| 氏名 | 変更内容（新） |
|-------|---|
| 世木田茂樹 | （浦）セキタデザインスタジオ 〒236 横浜市金沢区福浦1-1-1 横浜金沢ハーバーセンター テクノア5F 横浜デザインフォーラム内 Tel. 045-788-8011 Fax 045-788-8012 |
| 高谷 時彦 | （株）設計・計画高谷時彦事務所 〒112 東京都文京区千石4-37-4 Tel. 03-3942-5191 Fax 03-3942-5192 |
| 野中 勝利 | 筑波大学芸術学系 〒305 茨城県つくば市天王台1-1-1 |
| 松山 茂 | （株）都市空間研究所 〒550 大阪市西区北堀江1-3-3 Tel. 0298-53-2704 Fax 0298-53-6508 |
| 守屋 弓男 | （株）MIA建築デザイン研究所 〒135 東京都江東区青海2-45 タバタビル Tel. 03-5531-0758 |
| 脇坂 和彦 | （株）サンポール 〒107 東京都港区北青山2-7-9 日昭ビル Tel. 03-3408-2691 Fax 03-3408-1895 |

編集後記

企画は土田さん、櫻井さんで行い、編集は急遽バトンタッチとなってバタバタでとりまとめました。選挙公告もあり遅れないようにしようとしましたが、やはり遅れてしまいました。

アジア特集というおもしろいテーマなのですが、国際委員会のそうそうたるメンバーと違い、短期間でまとめるテーマとしては広報出版委員会には荷が重いテーマでした。いざ編集となると思いもしない問題が発生。和訳依頼や校正作業、頼み忘れた中国語のキャプションなど手書き文字の意味が理解できず、たまたま事務所にあった北海市の資料から借用など・・・。

JUDIも国際化しているのだから英文原稿のまま載せては、というご意見もありましたが、国際化していない自分は迷わず翻訳を依頼。

なお、カトマンズ、ハノイ、香港の英文原稿は、北川恵美子さん（成城大学大学

院）が翻訳したものです。原文も載せておりますので、不明な点はご確認を。

（作山）

広報・出版委員会

| | |
|-------|-------|
| 土田 旭 | 松村みち子 |
| 沢木 俊問 | 伊藤 光造 |
| 近田 玲子 | 小林 郁雄 |
| 菅 孝能 | 清水 泰博 |
| 中島 猛夫 | 河本 一行 |
| 櫻井 淳 | 森川 稔 |
| 作山 康 | 吉田 慎悟 |